

2024年度三重短期大学年報

三重短期大学内部質保証推進委員会

目 次

2024年度三重短期大学年報刊行にあたって	1
2024年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表 1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表 2 全学の教員組織	8
表 3 専任教員個別表	9
表 4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表 5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表 6 学科の開設授業科目における専任担当率	15
表 7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表 8 国家試験・資格試験合格率及び卒業免許取得率	18
表 9 卒業判定	19
表 10 就職・進学状況	20
表 11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表 12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表 13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表 14 学生相談室利用状況	25
表 15 奨学金給付・貸与状況	26
表 16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表 17 教員研究費	28
表 18 科学研究費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7.	社会活動	
表21	公開講座の開設状況	32
8.	大学運営	
1)	施設・設備	
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2)	図書館	
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3)	財務	
表27	歳入・歳出決算表	38
4)	管理運営	
表28	教授会開催状況	39
9.	専任教員の活動実績	42

2024 年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年毎に実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010 年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013 年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017 年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。2020 年度に中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2024 年度には大学基準協会より、「2024 年度短期大学認証評価の結果、三重短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する」との評価結果を受けました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究・教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011 年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。(原則 12 月に公開)

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきますよう関係各方面にお願いいたします。

2025 年 12 月

津市立三重短期大学内部質保証推進委員会
(2025 年 4 月 1 日津市立三重短期大学へ名称変更)

2024 年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008 年 3 月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014 年度には、新たにディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを定めてHP上に公開し、随時これら3つのポリシーの見直しを行っている。

2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については、法経科は 2007 年度以降継続しており、生活科学科は 2021 年度から食物栄養学専攻が食物栄養学科食物栄養学専攻に改編され、3 学科体制となった。
- ・専任教員は、助教以上が法経科 14 名、食物栄養学科 8 名、生活科学科 8 名の計 30 名で、教員 1 名当たりの在籍学生数は、平均 20.4 名（=611/30）である。学科別では、法経科 23.4 名、食物栄養学科 11.1 名、生活科学科 24.3 名である。
- ・教員の年齢構成は、35 歳以下が 5 名、36 歳以上 45 歳以下が 6 名、46 歳以上 55 歳以下が 14 名、56 歳以上 65 歳以下が 5 名である。
- ・教員の職階構成は、教授 10 名、准教授 11 名、講師 6 名、助教 3 名となっている。
- ・事務職員は 29 名おり、専任職員が 15 名、会計年度職員等が 13 名、その他 1 名となっている。

3. 教育課程の状況

- ・開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、法経科第 1 部が 44.8%（昨年度 50.0%）、法経科第 2 部が 44.2%（昨年度 40.0%）、食物栄養学科が 72.5%（昨年度 72.5%）、生活科学科が 50.5%（昨年度 51.0%）であり、約半数が専任教員により担当されているが、食物栄養学科の比率が高い。
- ・収容定員に対する在籍学生数の割合では、法経科第 1 部（1.08）は定員を充足しているが、食物栄養学科（0.89）、生活科学科（0.97）は定員に満たない。法経科第 2 部（0.57）は、定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、85.8%であり、昨年度（83.2%）より増加している。
- ・留年率は、8.7%であり、昨年度（9.0%）より減少している。
- ・退学・休学状況では、退学率は 6.2%であり、昨年度（5.5%）より増加している。また、休学者数は 11 名おり昨年度（22 名）より 11 名減少している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得率は 95.5%であり昨年度（93.8%）より増加している。管理栄養士免許取得者は、昨年度と同じ 9 名であった。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、食物栄養学科 31 名（昨年度 37 名）、法経科第 1 部 54 名（昨年度 57 名）、生活科学科 50 名（昨年度 54 名）であり、法経科第 2 部 18 名（昨年度 7 名）は昨年度より増加している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第 2 部 10 名（昨年度 11 名）、生活科学科 14 名（昨年度 18 名）、食物栄養学科 6 名（昨年度 6 名）であり、法経科第 1 部 25 名（昨年度 14 名）は、昨年度より増加している。

4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第1部（104.8%）と100%を越えているが、生活科学科（95.2%）、食物栄養学科（94.0%）と法経科第2部（46.4%）は100%未満である。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると2024年度入試の1.17（＝409/350）倍から、2025年度入試では1.06倍（＝370/350）へと減少しており、過去5年間で最も低くなっている。
- ・入試種別の入学者の構成は、一般選抜（2次募集含む）が23.0%（昨年度27.1%）、学校推薦型選抜（2次募集含む）が44.8%（昨年度45.5%）、共通テスト利用選抜Ⅰ期・Ⅱ期が18.0%（昨年度18.1%）、社会人特別選抜Ⅰ期・Ⅱ期が3.8%（昨年度2.5%）、関連分野特別選抜が10.4%（昨年度6.8%）となっている。昨年度より関連分野特別選抜が3.6ポイント増加している。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室では、臨床心理士によりカウンセリングが行われている。利用状況では、年間開室日数は計35日（昨年度39日）であり、昨年度より4日減少している。相談件数も47件（昨年度53件）であり、昨年度より6件減少している。なお、今年度の開設時間は10:30～13:30、16:45～19:45であった。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生611名の39.1%（昨年度47.9%）に当たる239名が受給している。受給学生比率は昨年度から8.8ポイント減少した。一人当たりの平均受給額は年間約56.5万円であり、すべて日本学生支援機構奨学金の貸与・給付である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、修学支援新制度に基づくものは、2024年度前・後期合計で、全額免除102件、2/3免除43件、1/3免除26件、1/4免除4件、合計175件が認定されている。また、大学独自減免制度によるものは、前・後期合計で、全額免除4件が認定された。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,592万円である。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費（経常研究費）は法経科で37.0万円、食物栄養学科と生活科学科は32.0万円である。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分（学内経常研究費）の割合は、法経科が58%、食物栄養学科が16%、生活科学科が53%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2024年度は1件申請があり、採択数は0件であった。
- ・教員研究室の個室率は、全学科で100%である。共同研究室も含めた研究室の平均面積は、法経科は22.7㎡、食物栄養学科は26.7㎡、生活科学科は28.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の一週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均9.1授業時間、食物栄養学科は平均11.5授業時間、生活科学科は平均11.5授業時間である。

7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座は、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講座がある。2024年度の公開講座は、オープンカレッジ10講座、地域連携講座2講座、出前講座7講座が開講

された。参加者（延べ数）の合計は877名であり、昨年度（1,223名）より346名減少した。
1講座当たりの平均受講者数は46名であった。

8. 大学運営

- ・校地面積（25,045 m²）と校舎面積（7,059 m²）は昨年度と変化はない。講義室・演習室等の面積は2,611 m²であり、講義室の学生1人当たりの面積は1.96 m²である。
- ・図書館の所蔵冊数は103,573冊（昨年度101,565冊）で、2024年度中に2,008冊増加した。図書館の入館者数は14,330名（昨年度12,420名）、貸出者数は2,095名（昨年度2,387名）、貸出冊数は3,736冊（昨年度4,140冊）である。入館者数は昨年度より1,910名増加したが、貸出冊数は404冊減少している。
- ・大学財政についてみると、2024年度の歳入合計は6億4,116万円で、そのうち授業料・入学金が2億1,203万円、一般財源が3億9,287万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億4,007万円、大学管理運営事業費1億4,334万円、図書館管理運営事業費1,258万円、教育研究関係事業費642万円、施設維持補修事業費3,505万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて16回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究・教育・社会的活動の状況を掲載した。

1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

(1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

1) 教育研究の理念

①真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

②優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

(2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

(3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

(4) 学科・専攻の目的

法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

食物栄養学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(5) 学科・専攻の教育目標

法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

食物栄養学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育・栄養指導を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻

- ・自ら賢明な生活者たることを目指すとともに、生活の具体的な場としての地域の快適化と活性化に貢献する人材を育成する。
- ・「生活の具体的な場」である地域は、生活の主体である人々（諸個人・家族・コミュニティ）と、その活動の条件となる環境によって構成されるものであって、「生活福祉・心理コース」においては主に前者の、「居住環境コース」においては主に後者の側面から、生活科学を修得する人材の育成をめざす。

表 1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コース
三重短期大学	法経科	第 1 部<1969年4月>	法律コース<2007年4月>
		第 2 部<1952年4月>	経商コース<2007年4月>
	食物栄養学科	食物栄養学専攻<2021年4月>	
	生活科学科	生活科学専攻<1991年4月>	生活福祉・心理コース<2007年4月> 居住環境コース<2007年4月>

表 2 全学の教員組織 (2024年度)

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	5	5	4		14		7	23.43	5	5	3		13	60
	第2部							3							41
食物栄養学科	食物栄養学専攻	2	1	2	3	8		4	11.13			1		1	39
生活科学科	生活科学専攻	3	5	0		8		4	24.25	1	1			2	77
合 計		10	11	6	3	30		18		6	6	4		16	217
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数								5							

[注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示し、兼任とは、複数の学科を担当する専任教員を示す。

[注] 2 2024年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表（2024年度）

法経科						授 業 科 目										最終学歴及び 学位称号
職名	フリガナ 氏 名	性別	就職 年月日	現職就任 年月日	所属	毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教授	ムライ ミヨコ 村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ（法2）			2.0	2.0			2.0	2.0	大阪大学大学院 文学研究科 文学博士	
						英語講読				2.0	2.0			2.0		2.0
						英語講読（法2）				2.0	2.0			2.0		2.0
						計	0.0	0.0	6.0	6.0	0.0	0.0	6.0	6.0		
教授	イシハラ ヨウスケ 石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						金融論（法2）	4.0						4.0	0.0		
						国際経済論	2.0						2.0	0.0		
						農林体験セミナー					2.0		2.0	0.0		
						食と観光実践						2.0	0.0	2.0		
						医療・健康・福祉実践					2.0		2.0	0.0		
						次世代産業実践						2.0	0.0	2.0		
						自治体行政特論		2.0					0.0	2.0		
						経商基礎演習		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	6.0	8.0	2.0	2.0	4.0	4.0	12.0	14.0		
教授	オオハタ ナツヲ 大畑 智史	男	2016/4/1	2021/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0					0.0	4.0	東北大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						財政学（法2）	4.0						4.0	0.0		
						地方財政論（法2）		2.0					0.0	2.0		
						経商基礎演習		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
教授	タナカ サトミ 田中 里美	女	2012/4/1	2023/4/1	法経科 経商 コース	計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0	明治大学大学院 商学研究科 博士（商学）	
						会計学	4.0						4.0	0.0		
						会計学（法2）		4.0					0.0	4.0		
						税務会計論	2.0						2.0	0.0		
						経商基礎演習		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
教授	フルベタ ジュン 古畑 淳	男	2023/4/1	2023/4/1	法経科 法律 コース	社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	山梨学院大学大学院 公共政策研究科 修士（公共政策）	
						計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0		
						行政法	4.0						4.0	0.0		
						行政法（法2）		4.0					0.0	4.0		
						地方自治法		2.0					0.0	2.0		
						法学基礎演習		2.0					0.0	2.0		
准教授	イマモト コウヘイ 今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	演習			2.0	2.0			2.0	2.0	関西大学大学院 文学研究科 博士（文学）	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0		
						文学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
						文学Ⅰ（法2）	2.0						2.0	0.0		
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						文学Ⅱ（法2）		2.0					0.0	2.0		
						ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ			2.0	2.0			2.0	2.0		
准教授	タノエ アツシ 田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 経商 コース	ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ（法2）			2.0	2.0			2.0	2.0	京都大学大学院 経済学研究科 博士（経済学）	
						ドイツ語Ⅱ・独語Ⅱ			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	4.0	4.0	6.0	6.0	0.0	0.0	10.0	10.0		
						経済学	4.0						4.0	0.0		
						経済学（法2）	4.0						4.0	0.0		
						経済学史		2.0					0.0	2.0		
准教授	アサノ カズヤ 浅野 和也	男	2019/10/1	2019/10/1	法経科 経商 コース	経商基礎演習		2.0					0.0	2.0	中京大学大学院 経営学研究科 博士（経営学）	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	8.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	8.0		
						経営学	4.0						4.0	0.0		
						経営学（法2）		4.0					0.0	4.0		

職名	フリガナ氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数											
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
准教授	カワカミ サトシ 川上 哲	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 法律 コース	行政学		4.0						0.0	4.0	一橋大学大学院 社会学研究科 修士（社会学）	
						行政学（法2）	4.0							4.0	0.0		
						地方政治論	2.0							2.0	0.0		
						法学基礎演習		2.0						0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
准教授	ニシカワ ショウゴ 西川 昇吾	男	2020/4/1	2023/4/1	法経科 法律 コース	計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0	熊本大学大学院 社会文化科学研究科 博士（法学）		
						労働法	4.0							4.0			0.0
						労働法（法2）		4.0						0.0			4.0
						社会保障法		2.0						0.0			2.0
						法学基礎演習		2.0						0.0			2.0
						演習			2.0	2.0				2.0			2.0
講師	ワシオ カズノリ 鷲尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科 経商 コース	社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	高千穂大学大学院 経営学研究科 博士（経営学）		
						計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0			
						憲法Ⅰ・日本国憲法・憲法	4.0							4.0			0.0
						憲法Ⅱ	2.0							2.0			0.0
						憲法Ⅰ・日本国憲法（法2）		4.0						0.0			4.0
						法学基礎演習		2.0						0.0			2.0
講師	カマツカ ニキ 鎌塚 有貴	女	2018/10/1	2018/10/1	法経科 法律 コース	演習			2.0	2.0			2.0	2.0	明治大学大学院 法学研究科 修士（法学）		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0			
						計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0			
						民法Ⅰ	4.0							4.0			0.0
						民法Ⅰ（法2）	4.0							4.0			0.0
						民法Ⅱ		2.0						0.0			2.0
講師	テルイ ヘルアキ 照井 遥瑛	男	2022/4/1	2022/4/1	法経科 法律 コース	法学基礎演習		2.0						0.0	2.0	明治大学大学院 法学研究科 修士（法学）	
						演習			2.0	2.0				0.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						計	8.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	8.0			
						刑法	4.0							4.0	0.0		
						刑法（法2）		4.0						0.0	4.0		
講師	カシワザキ サヨコ 柏崎 早陽子	女	2024/4/1	2024/4/1	法経科 法律 コース	刑事政策		2.0						0.0	2.0	明治大学大学院 法学研究科 博士（法学）	
						法学基礎演習		2.0						0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0				2.0	2.0		
						計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0			

食物栄養学科

食物栄養学科						授 業 科 目										最終学歴及び 学位称号
職名	氏 名	性別	就 年 月 日	職 任 年 月 日	所属	毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教授	アベ チサト 阿部 稚里	女	2006/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	栄養教育論	2.0						2.0	0.0	椋山女子大学 大学院 生活科学研究科 博士(人間生活科学)	
						栄養指導論		2.0					0.0	2.0		
						栄養教育論実習					3.0		3.0	0.0		
						栄養指導論実習						3.0	0.0	3.0		
						給食運営管理論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						給食運営管理論実習Ⅲ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	2.2	2.2	4.0	4.0	5.0	5.0	11.2	11.2		
教授	コマダ アイ 駒田 アイ	女	2007/8/1	2023/4/1	食物栄養学科	調理学	2.0						2.0	0.0	青森県立保健大学 大学院 健康科学研究科 博士(健康科学)	
						調理学実習Ⅱ						3.0	0.0	3.0		
						給食運営管理論		2.0					0.0	2.0		
						給食運営管理論実習Ⅰ					6.0		6.0	0.0		
						給食運営管理論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						給食運営管理論実習Ⅲ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						食物栄養学入門	0.6						0.6	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.6					0.0	0.6		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	2.6	2.6	4.0	4.0	8.0	5.0	14.6	11.6		
准教授	アイカワ ユウキ 相川 悠貴	男	2017/10/1	2019/4/1	食物栄養学科	健康管理概論		2.0					0.0	2.0	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士(体育科学)	
						解剖生理学	2.0						2.0	0.0		
						生化学	2.0						2.0	0.0		
						運動保健学		2.0					0.0	2.0		
						生化学実験					3.0		3.0	0.0		
						解剖生理学実験						3.0	0.0	3.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	4.2	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0	11.2	11.2		
講師	スギノ カエ 杉野 香江	女	2017/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食生活論	2.0						2.0	0.0	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学研究科 修士(保健衛生学)	
						栄養学		2.0					0.0	2.0		
						栄養学実験						3.0	0.0	3.0		
						応用栄養学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
						応用栄養学Ⅱ	2.0						2.0	0.0		
						応用栄養学実習						3.0	0.0	3.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	6.2	2.2	4.0	4.0	0.0	6.0	10.2	12.2		
講師	イシダ ツキミ 飯田 津喜美	女	1990/4/1	2024/4/1	食物栄養学科	食品学実験					3.0		3.0	0.0	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 博士(応用生命科学)	
						食品学総論	2.0						2.0	0.0		
						食品学各論	2.0						2.0	0.0		
						食品衛生学		2.0					0.0	2.0		
						食品加工学		2.0					0.0	2.0		
						食品衛生学実験						3.0	0.0	3.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	4.2	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0	11.2	11.2		
助教	ハットリ トモミ 服部 知美	女	2019/4/1	2019/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	鈴鹿医療科学大学 医療科学研究科 博士(医療科学)	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
助教	フクヤス トモヤ 福安 智哉	男	2020/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	名古屋大学大学院 栄養科学研究科 修士(栄養学)	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
助教	イクタ リオ 生田 李緒	女	2024/4/1	2024/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	福岡女子大学大学院 人間環境科学研究科 博士(人間環境科学)	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
計	0.2	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0	4.2	4.2								

生活科学科

職名	フリガナ氏名	性別	就年月日	職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数											
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
教授	ミナミアサト南有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境共生論	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学修士		
						生活経営		2.0					0.0	2.0			
						環境政策論		2.0					0.0	2.0			
						環境政策論（法2）		2.0					0.0	2.0			
						地域政策論Ⅱ・地域政策論（法2）		2.0					0.0	2.0			
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						居住環境基礎		2.0					0.0	2.0			
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0			
計	4.2	10.0	6.0	4.0	0.0	0.0	10.2	14.0									
教授	キノシタセイイチ木下誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住計画論	2.0						2.0	0.0	三重大学大学院 工学研究科 博士（工学）		
						建築製図基礎			4.0				4.0	0.0			
						居住福祉論		2.0					0.0	2.0			
						住生活論		2.0					0.0	2.0			
						住生活設計Ⅰ				4.0			0.0	4.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						居住環境基礎		2.0					0.0	2.0			
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0			
						計	2.2	6.0	10.0	8.0	0.0	0.0	12.2	14.0			
教授	オノダラカズシゲ小野寺一成	男	2014/4/1	2019/4/1	居住環境コース	都市計画論		2.0					0.0	2.0	東洋大学大学院 工学研究科 博士（国際地域学）		
						地域政策論Ⅰ・地域政策論	2.0						2.0	0.0			
						住環境計画	2.0						2.0	0.0			
						地域環境学		2.0					0.0	2.0			
						まちづくり企画			2.0				2.0	0.0			
						まちづくり設計				2.0			0.0	2.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.6						0.6	0.0			
						居住環境基礎		2.0					0.0	2.0			
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0			
計	4.6	6.0	8.0	6.0	0.0	0.0	12.6	12.0									
准教授	キタムラカオリ北村香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士		
						社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0			
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ				3.0			0.0	3.0			
						社会福祉援助技術演習Ⅰ				4.0			0.0	4.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ					1.0		1.0	0.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						福祉心理基礎演習		2.0					0.0	2.0			
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0			
計	4.2	2.0	4.0	9.0	1.0	1.0	9.2	12.0									
准教授	タケダノブカズ武田誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	医療福祉論	2.0						2.0	0.0	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 医科学専攻 修士（社会福祉学） 修士（医学科学） 修士（社会学）		
						社会福祉援助技術総論	4.0						4.0	0.0			
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ					1.0		1.0	0.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						福祉心理基礎演習		2.0					0.0	2.0			
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0			
						計	6.2	6.0	4.0	2.0	1.0	1.0	11.2	9.0			
准教授	リュウコウイチロウ笠浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0						2.0	0.0	名古屋大学大学院 情報科学研究科 博士（情報科学）		
						数理科学	2.0						2.0	0.0			
						情報技術論・情報と科学	2.0						2.0	0.0			
						情報処理実習Ⅰ（法2）					2.0		2.0	0.0			
						情報処理実習Ⅱ					4.0		4.0	0.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						居住環境特別演習			4.0				4.0	0.0			
						計	6.2	0.0	6.0	0.0	6.0	0.0	18.2	0.0			
						准教授	タカハシアヤ高橋彩	女	2019/4/1	2019/4/1	生活福祉・心理コース	発達心理学	2.0				
心理学	2.0												2.0	0.0			
行動の理論		2.0											0.0	2.0			
心理学と心理的支援論		2.0											0.0	2.0			
青年期の心理		2.0											0.0	2.0			
心理学基礎実験			4.0										4.0	0.0			
心理学研究法		2.0											0.0	2.0			
地域づくり実践			2.0										2.0	0.0			
生活科学概論	0.2												0.2	0.0			
福祉心理基礎演習		2.0											0.0	2.0			
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0									
計	4.2	10.0	8.0	2.0	0.0	0.0	12.2	12.0									
准教授	タナカタクシ田中武士	男	2022/4/1	2024/4/1	生活福祉・心理コース	社会保険論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	仏教大学大学院 社会福祉学研究科 博士（社会福祉学）		
						社会保険論Ⅱ		2.0					0.0	2.0			
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ			3.0				3.0	0.0			
						社会福祉論Ⅰ・社会福祉論	2.0						2.0	0.0			
						介護概論		2.0					0.0	2.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ							1.0	0.0			
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0			
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0			
						福祉心理基礎演習		2.0					0.0	2.0			
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0									
計	4.2	6.0	7.0	2.0	1.0	1.0	12.2	9.0									

〔注〕1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。

〔注〕2 2024年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2024年度)

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
法経科	教授	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	5 35.7%	2 14.3%	1 7.1%	3 21.4%	0 0.0%	14 100.0%
定年 65 歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
食物栄養学科	教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	講師	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	3 100.0%
	合計	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	8 100.0%
定年 65 歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
生活科学科	教授	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
定年 65 歳										

	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
全学科	教授	2 20.0%	2 20.0%	2 20.0%	3 30.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	7 63.6%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	講師	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	6 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	3 100.0%
	合計	2 6.7%	3 10.0%	4 13.3%	10 33.3%	4 13.3%	2 6.7%	4 13.3%	1 3.3%	30 100.0%
定年 65 歳										

[注] 1 2024年5月1日時点の状況を示す。

表5 事務組織（2024年度）

	部 署 名	担当名	専任職員	うち管理職	兼務職員	常勤嘱託職員	会計年度職員	その他	計
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	5	2(1)	1		2		7
	大学総務課	総務担当	6	3			9	1	16
		地域連携センター			3(1)				
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
	合 計		15	8(2)	4(1)		13	1	29

[注] 1 () 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

[注] 2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専任担当率

[2022年度]						
学 科・部・専 攻				必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	29.00	30.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	28.00	28.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	50.88	51.72
		教養教育	専任担当科目数 (A)	0.50	17.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	12.50	47.22	43.75
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	20.00	21.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	22.00	22.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	47.62	48.84
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	16.00	18.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	37.50	50.00	48.61
食物栄養学科	食物栄養学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	22.00	28.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	11.00	12.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	85.71	66.67	70.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	30.00	47.22	45.12
生活科学科	生活科学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	44.00	46.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	47.00	47.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	48.35	49.46
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	30.00	47.22	45.12

[2023年度]						
学 科・部・専 攻				必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	28.00	29.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	29.00	29.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	49.12	50.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	0.50	13.00	13.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	20.00	23.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	12.50	39.39	36.49
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	17.00	18.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	27.00	27.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	38.64	40.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	18.00	20.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	37.50	43.75	43.06
食物栄養学科	食物栄養学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	23.00	29.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	10.00	11.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	85.71	69.70	72.50
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	30.00	42.42	40.79
生活科学科	生活科学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	47.00	49.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	47.00	47.00
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	100.00	50.00	51.04
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	15.00	16.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	21.00	24.50
			専任担当率 % (A / (A + B) *100)	30.00	41.67	40.24

[2024年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	25.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	32.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	43.86
		教養教育	専任担当科目数 (A)	0.50	15.00
			兼任担当科目数 (B)	3.50	21.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	12.50	41.67
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	18.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	24.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	42.86
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00
			兼任担当科目数 (B)	2.50	18.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	37.50	43.75
食物栄養学科	食物栄養学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	23.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	10.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	85.71	69.70
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	15.00
			兼任担当科目数 (B)	3.50	21.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	30.00	41.67
生活科学科	生活科学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	45.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	49.45
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	15.00
			兼任担当科目数 (B)	3.50	21.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	30.00	41.67

[注] 1 「全開設授業科目」とは、必修科目と選択必修科目をあわせたものである。

[注] 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼任科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

〔2022年度〕

【2022年度】

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在 籍 学 生 数				備 考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	217	1.09	103	114	7	6.14	
	第2部	100	200	109	0.55	47	62	12	19.35	
計		200	400	326	0.82	150	176	19	10.80	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	100	94	0.94	52	42	0	0.00	
生活科学科	生活科学専攻	100	200	209	1.05	97	112	5	4.46	
合 計		350	700	629	0.90	299	330	24	7.27	

2022年5月1日現在

〔2023年度〕

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在 籍 学 生 数				備 考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	208	1.04	103	105	3	2.86	
	第2部	100	200	132	0.66	70	62	18	29.03	
計		200	400	340	0.85	173	167	21	12.57	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	100	100	1.00	48	52	1	1.92	
生活科学科	生活科学専攻	100	200	199	1.00	96	103	7	6.80	
合 計		350	700	639	0.91	317	322	29	9.01	

2023年5月1日現在

〔2024年度〕

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在 籍 学 生 数				備 考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	215	1.08	108	107	6	5.61	
	第2部	100	200	113	0.57	31	82	14	17.07	
計		200	400	328	0.82	139	189	20	10.58	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	100	89	0.89	41	48	3	6.25	
生活科学科	生活科学専攻	100	200	194	0.97	96	98	6	6.12	
合 計		350	700	611	0.87	276	335	29	8.66	

2024年5月1日現在

〔注〕 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率及び卒業免許取得率

〔2022年度〕

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	27	6	22.2
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		3	
	社会福祉士	15	6	40.0
	【卒業免許】			
食物栄養学科食物栄養学専攻	栄養士免許	41	40	97.6

〔2023年度〕

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	39	9	23.1
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		6	
	社会福祉士	12	4	33.3
	【卒業免許】			
食物栄養学科食物栄養学専攻	栄養士免許	48	45	93.8

〔2024年度〕

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	32	9	28.1
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		2	
	社会福祉士	10	4	40.0
	【卒業免許】			
食物栄養学科食物栄養学専攻	栄養士免許	44	42	95.5

〔注〕 1 2級建築士合格者数は、本学が把握した人数を計上した。

受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2022年度			2023年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	114	108	94.7	105	92	87.6
	第2部	62	37	59.7	62	37	59.7
計		176	145	82.4	167	129	77.2
食物栄養学科	食物栄養学専攻	42	41	97.6	52	48	92.3
生活科学科	生活科学専攻	112	102	91.1	103	91	88.3
合計		330	288	87.3	322	268	83.2

学科・部・専攻		2024年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	107	102	95.3
	第2部	72	48	66.7
計		179	150	83.8
食物栄養学科	食物栄養学専攻	48	45	93.8
生活科学科	生活科学専攻	98	84	85.7
合計		325	279	85.8

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

[注] 2 2023年度以前は卒業予定者(A)に長期履修学生の卒業予定学年以外の者が含まれる

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路		2022年度	2023年度	2024年度
法経科	第 1 部	就職	民間企業	58	46	44
			官公庁	7	11	10
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	18	14	25
			上記以外	1	4	1
		そ の 他	24	17	22	
	合 計		108	92	102	
	第 2 部	就職	民間企業	11	7	14
			官公庁	1	0	4
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	9	11	10
			上記以外	1	1	3
		そ の 他	15	18	17	
	合 計		37	37	48	
法経科 計			145	129	150	
食物栄養 学科	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	29	36	31
			官公庁	1	1	0
			上記以外	0	0	0
			(A)	(30)	(37)	(30)
		進学	他大学編入	7	6	6
			上記以外	0	0	2
		そ の 他	4	5	6	
		合 計		41	48	45
生活科学科	生活科学 専攻	就職	民間企業	55	53	47
			官公庁	7	1	3
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	14	18	14
			上記以外	0	2	1
		そ の 他	26	17	19	
	合 計		102	91	84	

〔注〕1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業者（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

〔注〕2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2022年度				2023年度				2024年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	1	4 (1)	5	2.3	1	6 (0)	7	3.4	2	4 (1)	6	2.8
	第2部	3	7 (3)	10	9.2	6	8 (3)	14	10.6	0	8 (2)	8	7.1
法経科 計		4	11 (4)	15	4.6	7	14 (3)	21	6.2	2	12 (2)	14	4.3
食物栄養学科	食物栄養学専攻	1	0 (0)	1	1.1	3	1 (1)	4	4.0	5	1 (1)	6	6.7
生活科学科	生活科学専攻	1	3 (1)	4	1.9	5	5 (3)	10	5.0	8	10 (3)	18	9.3
合 計		6	14 (5)	20	3.2	15	20 (10)	35	5.5	15	23 (9)	38	6.2

【休学者】

学 科	部・専攻	2022年度			2023年度			2024年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	3	1 (0)	4	0	2 (0)	2	0	2 (0)	2
	第2部	1	8 (5)	9	3	7 (4)	10	0	2 (1)	2
法経科 計		4	9 (5)	13	3	9 (4)	12	0	4 (1)	4
食物栄養学科	食物栄養学専攻	1	1 (0)	2	0	2 (2)	2	0	3 (0)	3
生活科学科	生活科学専攻	0	3 (2)	3	4	4 (1)	8	3	1 (0)	4
合 計		5	13 (7)	18	7	15 (7)	22	3	8 (1)	11

〔注〕 1 () 内の数字は修業年限を越えて在籍している学生数を内数で示したもの。

履修期間を3年又は4年とする法経科第2部の学生においては、当該履修期間を越えて在籍している学生数を内数で示したもの。

〔注〕 2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。

〔注〕 3 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2021年度 入試	2022年度 入試	2023年度 入試	2024年度 入試	2025年度 入試	過去5年 間における A/Bの平均 (%)
法 経 科	第 1 部	学校推薦型選抜	志願者	60	59	70	59	46	104.8%
			合格者	56	54	55	51	45	
			入学者	56	54	55	51	45	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般選抜	志願者	107	92	93	66	52	
			合格者	73	70	64	58	49	
			入学者	48	39	42	37	34	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		共通テスト利用 選抜(I期)	志願者	17	50	42	29	38	
			合格者	12	30	12	28	38	
			入学者	5	10	2	14	16	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		共通テスト利用 選抜(II期)	志願者					5	
			合格者					5	
			入学者					2	
			入学定員					0	
		関連分野特別選 抜	志願者			3	6	5	
			合格者			3	6	5	
			入学者			3	6	5	
			入学定員			0	0	0	
		第1部 計	志願者	184	201	208	160	146	
			合格者	141	154	134	143	142	
			入学者(A)	109	103	102	108	102	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
			A/B	1.09	1.03	1.02	1.08	1.02	
	第 2 部	学校推薦型選抜	志願者	23	13	23	14	20	46.4%
			合格者	20	12	23	12	20	
			入学者	7	8	15	10	9	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		学校推薦型選抜 2次募集	志願者				1	1	
			合格者				1	1	
			入学者				1	0	
			入学定員				0	0	
		一般選抜	志願者	24	19	20	9	5	
			合格者	22	18	20	7	5	
			入学者	18	14	16	5	5	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		一般選抜 2次募集	志願者		5	1	3		
			合格者		5	1	2		
			入学者		5	0	2		
			入学定員		0	0	0		
		共通テスト利用 選抜(I期)	志願者	42	20	40	24	12	
			合格者	41	20	40	24	12	
			入学者	23	14	27	8	3	
			入学定員	25	25	25	25	15	
		共通テスト利用 選抜(II期)	志願者					8	
			合格者					8	
			入学者					5	
			入学定員					10	
		社会人特別選抜 (I期)	志願者	7	7	12	6	4	
			合格者	6	7	12	5	4	
			入学者	6	6	12	5	4	
			入学定員	25	25	25	25	15	
		社会人特別選抜 (II期)	志願者					5	
			合格者					4	
			入学者					4	
			入学定員					10	
		第2部 計	志願者	96	64	96	57	55	
			合格者	89	62	96	51	54	
			入学者(A)	54	47	70	31	30	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
			A/B	0.54	0.47	0.70	0.31	0.30	
	学科 合計		志願者	280	265	304	217	201	75.6%
			合格者	230	216	230	194	196	
			入学者(A)	163	150	172	139	132	
			入学定員(B)	200	200	200	200	200	
			A/B	0.82	0.75	0.86	0.70	0.66	

学科	部・専攻	入試の種類		2021年度 入試	2022年度 入試	2023年度 入試	2024年度 入試	2025年度 入試	過去5年間 におけるA /Bの平均 (%)
食 物 栄 養 学 科	食 物 栄 養 学 専 攻	学校推薦型選抜	志願者	32	34	24	21	34	
			合格者	29	29	23	21	31	
			入学者	29	29	23	21	31	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		一般選抜	志願者	20	30	22	14	15	
			合格者	18	24	20	13	13	
			入学者	9	12	11	10	8	
			入学定員	20	20	20	20	15	
		共通テスト利用 選抜(Ⅰ期)	志願者	21	21	11	7	8	
			合格者	21	10	11	7	5	
			入学者	4	3	6	5	2	
			入学定員	5	5	5	5	4	
		共通テスト利用 選抜(Ⅱ期)	志願者	21	21	11	7	3	
			合格者	21	10	11	7	2	
			入学者	4	3	6	5	0	
			入学定員	5	5	5	5	0	
		関連分野特別選抜	志願者		8	11	6	10	
			合格者		8	8	6	10	
			入学者		8	8	6	10	
			入学定員		0	0	0	6	
		学科 合計	志願者	73	93	68	48	70	94.0%
			合格者	68	71	62	47	61	
			入学者(A)	42	52	48	42	51	
			入学定員(B)	50	50	50	50	50	
			A/B	0.84	1.04	0.96	0.84	1.02	
生 活 科 学 専 攻	生 活 科 学 専 攻	学校推薦型選抜	志願者	38	38	34	40	31	
			合格者	36	38	34	39	31	
			入学者	36	38	34	39	31	
			入学定員	45	45	45	45	40	
		学校推薦型選抜 2次募集	志願者				4	1	
			合格者				4	1	
			入学者				4	1	
			入学定員				0	0	
		一般選抜	志願者	79	65	52	43	20	
			合格者	74	61	47	38	20	
			入学者	42	38	27	20	13	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		一般選抜 2次募集	志願者				1		
			合格者				1		
			入学者				1		
			入学定員				0		
		共通テスト利用 選抜(Ⅰ期)	志願者	38	48	58	45	27	
			合格者	37	47	58	44	27	
			入学者	20	15	29	23	14	
			入学定員	20	20	20	20	15	
		共通テスト利用 選抜(Ⅱ期)	志願者					6	
			合格者					6	
			入学者					5	
			入学定員					5	
		関連分野特別選抜	志願者	9	6	5	8	12	
			合格者	8	5	5	7	12	
			入学者	8	5	5	7	12	
			入学定員	5	5	5	5	10	
		社会人特別選抜	志願者	3	1	4	3	2	
			合格者	3	1	4	3	2	
			入学者	2	1	2	2	2	
			入学定員	0	0	0	0	0	
		学科 合計	志願者	167	158	153	144	99	95.2%
			合格者	158	152	148	136	99	
			入学者(A)	108	97	97	96	78	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
			A/B	1.08	0.97	0.97	0.96	0.78	
短 期 大 学 合 計	短 期 大 学 合 計		志願者	520	516	525	409	370	83.8%
			合格者	456	439	440	377	356	
			入学者(A)	313	299	317	277	261	
			入学定員(B)	350	350	350	350	350	
			A/B	0.89	0.85	0.91	0.79	0.75	

[注] 1 各入学定員が若干名の場合及び2次募集分については「0」とした。

[注] 2 関連分野特別選抜の法経科第1部は経商コースのみ。

表13 学科の入学者の構成（2025年度入試）

学 科	部		入 学 者 数								備 考	
			一般選抜	学校推薦 型選抜	学校推薦 型選抜(2 次募集)	共通テスト 利用選抜 (Ⅰ期)	共通テスト 利用選抜 (Ⅱ期)	社会人特 別選抜 (Ⅰ期)	社会人特 別選抜 (Ⅱ期)	関連分野 特別選抜		計
法経科	第1部	入学定員	40	50		10	0			0	100	
		入学者数	34	45		16	2			5	102	
		計に対する割合	33.3%	44.1%		15.7%	2.0%			4.9%	100.0%	
	第2部	入学定員	25	25	0	15	10	15	10		100	
		入学者数	5	9	0	3	5	4	4		30	
		計に対する割合	16.7%	30.0%	0.0%	10.0%	16.7%	13.3%	13.3%		100.0%	
食物栄養学科	入学定員	15	25		4	0			6	50		
	入学者数	8	31		2	0			10	51		
	計に対する割合	15.7%	60.8%		3.9%	0.0%			19.6%	100.0%		
生活科学科	入学定員	30	40	0	15	5	0		10	100		
	入学者数	13	31	1	14	5	2		12	78		
	計に対する割合	16.7%	39.7%	1.3%	17.9%	6.4%	2.6%		15.4%	100.0%		
合 計	入学定員	110	140	0	44	15	15	10	16	350		
	入学者数	60	116	1	35	12	6	4	27	261		
	計に対する割合	23.0%	44.4%	0.4%	13.4%	4.6%	2.3%	1.5%	10.4%	100.0%		

2025年4月3日現在

〔注〕1 各入学定員が若干名の場合及び2次募集分については「0」とした。

また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	開室時間	年間開設日数			年間相談件数			備 考
				2022年度	2023年度	2024年度	2022年度	2023年度	2024年度	
学生相談室	0	1	10:30 ~ 13:30	6	8	11	10	12	16	臨床心理士
	0	1	17:30 ~ 19:30	22			29			臨床心理士
	0	1	17:45 ~ 19:45		31	24		41		臨床心理士
	0	1	16:45 ~ 19:45						31	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況（2024年度）

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 (A)	在籍学生 総数 (B)	在籍学生数に 対する比率 (%) A／B	支給総額 (千円) (C)	1件あたり支給額 (千円) C／A
日本学生支援機構奨学金	貸与	145	611	23.7%	99,039	683
	給付	94		15.4%	35,927	382
計		239	611	39.1%	134,966	565

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2022年度				2023年度				2024年度			
学期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免
全額免除	総数	53	1	55	0	47	3	52	3	52	2	50	2
	法経科第1部	22	0	24	0	20	1	20	1	23	1	25	1
	法経科第2部	7	0	7	0	6	2	6	2	9	0	8	0
	食物栄養学科	6	0	6	0	7	0	8	0	7	0	7	0
	生活科学科	18	1	18	0	14	0	18	0	13	1	10	1
	1年次	23	0	23	0	25	2	27	2	26	1	24	1
	2年次	30	1	32	0	22	1	25	1	26	1	26	1
2 / 3 免除	総数	21	0	24	1	29	0	20	0	24	0	19	0
	法経科第1部	9	0	9	0	15	0	9	0	11	0	6	0
	法経科第2部	4	0	3	0	3	0	1	0	2	0	1	0
	食物栄養学科	1	0	4	0	2	0	5	0	3	0	3	0
	生活科学科	7	0	8	1	9	0	5	0	8	0	9	0
	1年次	11	0	10	0	17	0	13	0	12	0	7	0
	2年次	10	0	14	1	12	0	7	0	12	0	12	0
1 / 3 免除	総数	18	0	9	0	19	0	15	0	14	0	12	0
	法経科第1部	8	0	3	0	3	0	7	0	8	0	7	0
	法経科第2部	3	0	1	0	3	0	4	0	1	0	2	0
	食物栄養学科	2	0	1	0	4	0	1	0	1	0	1	0
	生活科学科	5	0	4	0	9	0	3	0	4	0	2	0
	1年次	12	0	7	0	13	0	11	0	5	0	5	0
	2年次	6	0	2	0	6	0	4	0	9	0	7	0
1 / 4 免除	総数									1	0	3	0
	法経科第1部									0	0	1	0
	法経科第2部									0	0	0	0
	食物栄養学科									0	0	0	0
	生活科学科									1	0	2	0
	1年次									1	0	3	0
	2年次									0	0	0	0

[注] 1 2024年度から多子世帯への授業料免除開始。(1/4免除)

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳		2022年度			2023年度			2024年度		
			研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)
法経科	学内	研究費総額	4,890,000	100%	365,000	4,960,000	100%	370,000	4,960,000	100%	370,000
		経常研究費	2,860,000	58%	220,000	2,860,000	58%	220,000	2,860,000	58%	220,000
		学内共同研究費	0	0%	0	0	0%	0	0	0%	0
	学外	経常研究費	2,030,000	42%	145,000	2,100,000	42%	150,000	2,100,000	42%	150,000
		科学研究費補助金	0	0%	—	0	0%	—	0	0%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0			0			0		
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	0			0			0		
		奨学寄附金	0			0			0		
		受託研究費	0			0			0		
		共同研究費	0			0			0		
		その他	0			0			0		
食物栄養学科	学内	研究費総額	3,950,000	100%	315,000	4,945,000	100%	320,000	8,400,000	100%	320,000
		経常研究費	1,360,000	54%	170,000	1,360,000	53%	170,000	1,360,000	16%	170,000
		学内共同研究費	0	0%	0	0	0%	0	0	0%	0
	学外	経常研究費	1,160,000	29%	145,000	1,200,000	24%	150,000	1,200,000	14%	150,000
		科学研究費補助金	1,430,000	36%	—	1,885,000	38%	—	4,940,000	59%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0			0			0		
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	0		—	500,000	20%	—	900,000	11%	—
		奨学寄附金	0			0			0		
		受託研究費	0			0			0		
		共同研究費	0			0			0		
		その他	0			0			0		
生活科学科	学内	研究費総額	2,520,000	100%	315,000	2,560,000	100%	320,000	2,560,000	100%	320,000
		経常研究費	1,360,000	54%	170,000	1,360,000	53%	170,000	1,360,000	53%	170,000
		学内共同研究費	0	0%	0	0	0%	0	0	0%	0
	学外	経常研究費	1,160,000	46%	145,000	1,200,000	47%	150,000	1,200,000	47%	150,000
		科学研究費補助金	0	0%	—	0	0%	—	0	0%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	0			0			0		
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	0		—	0		—	0		—
		奨学寄附金	0			0			0		
		受託研究費	0			0			0		
		共同研究費	0			0			0		
		その他	0			0			0		

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

[注] 2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2022年度			2023年度			2024年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%) B/A	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%) B/A	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%) B/A
法経科	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
食物栄養学科	1	1	100.0	2	1	50.0	1	0	0.0
生活科学科	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0
計	2	1	50.0	3	1	33.3	1	0	0.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況（2024年度）

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率 (%) A/B	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	318.0	19.5	45.0	14	100%	22.7	0
食物栄養学科	8		8	213.8	26.7		8	100%	26.7	0
生活科学科	8	1	9	231.4	26.9	35.4	8	100%	28.9	0
計	30	2	32	763.2						

〔注〕1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

〔注〕2 食物栄養学科1名、生活科学科2名の教員については、会計年度任用職員と同室である。

表20 専任教員の担当授業時間数（2024年度）

法経科 (14人)						
区分	教員	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高		13.0 授業時間	10.0 授業時間	10.0 授業時間		1 授業時間:45分
最 低		6.0 授業時間	10.0 授業時間	0.0 授業時間		
平 均		9.8 授業時間	10.0 授業時間	7.5 授業時間		

食物栄養学科（8人）						
区分	教員	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高		13.1 授業時間	11.2 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	1 授業時間:45分
最 低		11.2 授業時間	11.2 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	
平 均		12.2 授業時間	11.2 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	

生活科学科（8人）						
区分	教員	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高		13.1 授業時間	12.1 授業時間			1 授業時間:45分
最 低		12.1 授業時間	9.1 授業時間			
平 均		12.5 授業時間	10.5 授業時間			

[注] 1 表3で算出した毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
オープンカレッジ	10	10	10	500	800	800	459	524	583	46	52	58
地域連携講座	2	2	2	100	160	160	75	118	84	38	59	42
出前講座	15	17	7	—	—	—	416	581	210	28	34	30
計	27	29	19	600	960	960	950	1,223	877	35	42	46

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2024年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要 校地面積 (m ²)	校舎面積 (m ²)	設置基準上必要 校舎面積 (m ²)	講義室・演習室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m ²)
25,045	7,000	7,059	4,150	27	2,611

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

[注] 2 校地面積は令和元年度地籍調査により修正。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2024年度）

講義室・演習室等	室 数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備 考
講 義 室			生活専用				
			食物栄養専用				
			法経専用				
	12	1,196.2	共用	940	611	1.96	
演 習 室	1	35.4	生活専用	12	194	0.18	
			食物栄養専用				
	5	75.0	法経専用	60	328	0.23	
	2	161.8	共用	75	611	0.26	
実 験 室			生活専用				
	2	279.5	食物栄養専用	100	89	3.14	
			法経専用				
			共用				
実 習 室	2	199.1	生活専用	70	194	1.03	
	2	500.5	食物栄養専用	100	89	5.62	
			法経専用				
	1	163.7	共用	52	611	0.27	
体 育 館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2024年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	国内書	外国書			2022年度	2023年度	2024年度	
三重短期大学附属図書館	103,573	40,766	86	3	422	1	1,401	1,559	2,028	

〔注〕 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2024年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数	利用者用PC(台)		視聴覚資料 視聴ブース (席)
		座席数 (A)				資料検索	データ ベース	
三重短期大学附属図書館	404	75	800	9.5	0	1	1	3

表26 図書館利用状況

専任 スタッフ数 (人)	非常勤 スタッフ数 (人)	年間 開館 日数	開館時間	入館者数 (人)			貸出者数 (人)			貸出冊数 (冊)		
				2022年度	2023年度	2024年度	2022年度	2023年度	2024年度	2022年度	2023年度	2024年度
2 (2)	1.5 (1.5)	223	開講日 8:30 ～21:00 休講日 8:30～ 17:00	13,932	12,420	14,330	2,689	2,387	2,095	4,506	4,140	3,736
							学内 2,653	学内 2,346	学内 2,033	学内 4,437	学内 4,050	学内 3,583
							教職員 334	教職員 423	教職員 415	教職員 851	教職員 804	教職員 814
							学生 2,319	学生 1,923	学生 1,618	学生 3,586	学生 3,246	学生 2,769
							学外 36	学外 41	学外 62	学外 69	学外 90	学外 153

[注] 1 スタッフ数の（ ）内数字は司書の資格を有するものの人数。

[注] 2 開館時間には1月と7月の臨時開館日（土曜開館、月末開館）は含まない。

[注] 3 入館者数は、貸出者数と閲覧利用等の利用者数の合計値。

[注] 4 貸出者数、貸出冊数は、学内、学外の合計値。

[注] 5 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5人で換算。

[注] 6 年間開館日数は2024年度の日数

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
歳入合計		611,706,668	552,537,729	576,493,097	776,639,913	572,972,094	641,155,187	704,051,000
	授業料	227,303,500	204,116,600	197,537,500	187,247,500	184,190,100	177,461,780	187,615,000
	入学料	56,654,200	41,750,700	41,679,600	44,105,700	36,288,500	34,566,800	39,433,000
	入学検定料	13,370,000	9,462,000	9,252,000	9,533,000	7,414,000	6,761,000	9,649,000
	その他歳入	70,056,906	10,663,883	3,751,064	198,811,348	7,034,771	29,491,834	92,532,000
	一般財源	244,322,062	286,544,546	324,272,933	336,942,365	338,044,723	392,873,773	374,822,000
歳出合計		611,706,668	552,537,729	576,493,097	776,639,913	572,972,094	641,155,187	704,051,000
	①一般職給	417,178,346	431,131,614	425,831,740	426,164,497	434,310,934	440,068,815	451,104,000
	②大学管理運営事業	93,185,047	94,223,972	122,781,509	105,956,716	94,808,745	143,343,601	120,148,000
	③図書館管理運営事業	12,819,690	12,770,076	12,453,844	11,836,428	25,071,349	12,576,318	12,257,000
	④地域貢献推進事業	676,046	520,328	681,375	574,717	987,814	677,112	775,000
	⑤地域問題研究事業	1,034,866	2,595,544	2,675,621	2,671,861	2,745,118	3,018,793	3,277,000
	⑥教育研究関係事業	11,516,508	8,982,125	3,750,243	5,335,565	5,926,714	6,422,274	8,492,000
	⑦施設維持補修事業	75,296,165	2,314,070	8,318,765	224,100,129	9,121,420	35,048,274	107,998,000

(各年決算資料より作成 2025年度は予算額)

表28 教授会開催状況（2024年度）

開催 年月日	定例・臨 時の別	出席数 (人)	欠席数 (人)	審議事項
4/18	定例	34	1	1 退学願について 2 既修得単位の認定について 3 三重短期大学学則の改正について 4 2024年度各種委員会委員について 5 地域問題研究所研究員の承認について
5/16	定例	34	1	1 休学・退学願について 2 地域問題研究所の予算について 3 事実調査委員会報告について
6/27	定例	33	2	1 休学・退学願について 2 今年度の「目標と計画」について 3 専任教員公募要領の改正について（案）
7/18	定例	32	3	1 休学・退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 三重短期大学法経科専任教員公募要領（案）について
8/8	臨時	30	5	1 休学・退学願について 2 令和6年度後期開設講座表及び時間割について 3 専任教員の昇任について
9/6	臨時	31	4	1 令和6年9月卒業判定について 2 令和6年度後期科目等履修生と聴講生の合否判定について 3 休学願について 4 令和7年度行事日程（案）について 5 令和7年度在外研修について 6 三重短期大学ハラスメントの防止に関する規程の改正（案）について 7 三重短期大学研究インテグリティの確保に関する規程及び誓約書（案）について 8 教員の勤務及び施設利用等に関する取扱いの改正（案）について 9 学長選挙管理委員会の設置について
10/17	定例	32	3	1 休学願・退学願について 2 再入学希望者に係る審査結果について 3 令和7年度行事日程（案）について 4 教員評価委員会 第2次評価に関する内規について 5 学長選挙日程（案）について 6 教員評価（学長分）
10/24	臨時	32	3	1 令和7年度関連分野特別選抜入学試験合否判定について 2 2025年度開設講座表（案）について
11/21	定例	33	2	1 休学願・退学願について 2 2025年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 3 専任教員の担当科目の変更について 4 非常勤講師の採用について 5 法経科専任教員（民法担当教員）公募（第1次選考）について 6 学長候補の承認について 7 三重短期大学ハラスメントの防止に関する規程の改正（案）について 8 三重短期大学の今後の在り方について
11/28	臨時	33	2	1 令和7年度学校推薦型選抜及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について

12/19	定例	33	2	1 令和7年度学校推薦型選抜（2次募集）の合否判定について 2 退学願について 3 非常勤講師の採用及び資格変更（昇任）について 4 2025年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 5 法経科専任教員（民法担当教員）公募（第2次選考）について 6 専任教員の担当科目の変更について 7 研究データポリシーと解説（案）について 8 不正行為判定委員会事務取扱の改正（案）について→取り下げ 9 学長選挙投票結果について
1/16	定例	33	2	1 2025年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 2 不正行為判定委員会事務取扱の改正（案）ほか関連規程の改正（案）について 3 ディプロマ・ポリシー等の改正（案）について 4 津市立三重短期大学学則の改正（案）について
2/12	臨時	32	3	1 令和7年度一般選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師の採用について 3 専任教員の昇任について 4 学生部長の改選について 5 附属図書館長及び地域連携センター長の改選について
2/27	臨時	33	2	1 令和7年度大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期（法経科第1部・法経科第2部・食物栄養学科・生活科学科）入学試験の合否判定について 2 令和6年度卒業判定について 3 令和6年度栄養士免許取得要件の判定について 4 退学願について 5 非常勤講師の採用について 6 2025年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 7 令和7年度行事日程（案）について 8 令和6年度外部評価委員会改善状況報告書（案）について 9 不正行為判定委員会規程、不正行為判定委員会事務取扱および三重短期大学入学試験規程の再改正（案）について
3/17	臨時	32	3	1 令和7年度大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期（法経科第1部・食物栄養学科・生活科学科・法経科第2部）の合否判定について 2 法経科第2部（一般選抜・社会人特別選抜Ⅱ期）入学試験の合否判定について 3 令和7年度科目等履修生・聴講生の合否判定について 4 再入学審査報告について 5 法経科転部希望者の選考結果について 6 休学・退学願について 7 非常勤講師の採用について 8 専任教員の担当科目の変更について 9 2025年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 10 令和7年度行事日程（案）について 11 令和7年度各種委員会委員名簿（案）について 12 大学名称変更に伴う規程の改正（案）について 13 三重短期大学附属図書館利用規程の改正（案）について 14 三重短期大学附属図書館利用内規の改正（案）について 15 三重短期大学入学試験管理委員会細則の改正（案）について 16 三重短期大学就職推薦基準の改正（案）について 17 教員評価（学長分）について

3/25	臨時	32	3	1 2025年度ガイダンス・オリエンテーションのスケジュール等について 2 津市人材評価実施要領の改正（案）について 3 教員評価委員会第2次評価に関する内規の改正（案）について 4 各種委員会の今年度の「総括」について 5 2025年度三重短期大学運営方針（案）について 6 2025年度キャリア支援方針（案）について 7 2024年度地域連携センター事業実績および2025年度事業計画（案）について 8 教員資格審査委員会委員の改選について 9 令和7年度各種委員会委員名簿（案）について 10 三重短期大学計量管理規定の改正（案）について
------	----	----	---	---

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動			
1 研究課題：イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、英語講読（共通、昼、通年、2）、英語講読（共通、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーでは進路や学習についての相談に応じ、編入学希望学生には過去問の採点、志望理由書の添削、面接練習などを行った。またTOEICや英検受験希望学生に、学習方法などの指導を行った。		
教育上の工夫	英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2） クラス人数は少なかったが、出席率は高く、授業中に私語もなく、真面目なクラスだった。「自主的な学習」を行っている学生が多く、指名した際の授業準備もよくできており、課題の提出率も高かった。年度によって選ぶテキストの読みやすさにばらつきがあり、今年度は若干よみやすかったかもしれない。テキストの進み具合が遅くなり、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と開きがでてしまった点を反省している。年間の学習計画をより慎重に検討したい。 英語講読（共通、昼、通年、2） クラス全体の出席率は高く、遅刻する学生はほとんどなく、授業中に私語もなく、真面目なクラスだった。テキスト内容について貴重な質問もあり、こちらがとても勉強になることもあった。丁寧に説明しすぎたり、逆に、理解しやすいと思い、簡単に説明を済ませてしまう箇所もあって、授業後に改めて質問を受けたこともあり、この点を反省している。課題の提出率は高く、指名した際の授業準備もよくできていた。「自主的な学習」もよく行っている。テキストの進み具合が遅く、後期末にシラバス記載の予定進捗度と開きがでてしまったこと、公務が重なり、休講せざるを得なくなり、補講で十分授業回数をカバーできなかった点を申し訳なく思っている。 英語講読（共通、夜、通年、2） クラス人数が少なかったが、全体の出席率は高く、授業中に私語もなく、非常に真面目なクラスだった。「自主的な学習」を行っている学生が多く、授業中に指名した際の授業準備もよくできており、課題の提出率も高かった。難しい箇所だと思い、丁寧に説明しすぎたり、逆に理解しやすいと思い、簡単に説明を済ませてしまう箇所があり、後で質問を受けることが若干あった点を反省している。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「あなたの知らないイギリス小説の世界ーあらずで読み直すイギリス小説ー」暮らしに役立つ図書館講座（2024年11月10日） 「三重短期大学におけるリカレント教育の取組」リカレント教育プラットフォームみえ第2回セミナー（2024年10月28日）		
学外審議会委員等	若者の県内定着・人口還流に向けた産学官連携懇話会委員 三重県文化振興事業団評議員 文部科学省 大学設置・学校法人審議会委員 三重県 県民功労者選考委員 内閣府 男女共同参画推進連携会議議員 全国公立短期大学協会 副会長 鹿児島県 魅力ある県立短期大学づくり検討委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 小学生の頃、石井桃子訳の『クマのプーさん』を読んでイギリスが大好きになり、日本語訳ではなく原語で読めるようになってほしいと思ったことが英語学習のスタートです。大学2年生の時にイギリスの詩人ジョン・キーツの作品に出会い、イギリス文学研究の道を歩むことになりました。研究者となり教員となりましたが、「イギリスと英語が大好き」ということに今も変わりありません。「受験英語」として仕方なく学んできたという人も多いと思いますが、受験勉強から解放された大学の2年間、英文を読み解く楽しさを学生の皆さんと共有できればと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：日銀の異次元の金融緩和の効果について、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：金融論（法1、昼、後期、4）、金融論（法2、夜、前期、4）、国際経済論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、農林体験セミナー（共通、昼、前期集中、2）、医療・健康・福祉実践（共通、昼、前期集中、2）自治体行政特論（共通、昼、前期、2）、次世代産業実（共通、昼、後期集中、2）、実践と観光実践（共通、昼、後期集中、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	三重短期大学生協理事		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	金融論（法1、昼、後期、4） 金融論は、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。 国際経済論（法1、昼、前期、2） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。 演習（法1、昼、通年、4） 金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所を見学した。前期は見学に向けた準備として日本銀行の機能や役割について学んだ。後期は卒論作成を通じた論文作成指導を行いながら、保険分野について学びを広げた。 金融論（法2、夜、前期、4） 金融論は、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。 経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 経済・金融の基礎を学びながら、レジュメ作成、報告、討論などのゼミ活動に慣れってもらうことに主眼を置いた。日本銀行の役割と近年の金融政策を学びながら、2年次演習で予定されている日銀見学などに向けた学習を深めた。 自治体行政特論（共通、昼、前期、2） 津市の各部署の職員および市長によるオムニバス講義であり、津市を事例に自治体行政がどのようなことをしているのかを理解できる機会を提供する、市立短大ならではの講義である。毎回感想や学んだ内容を小レポートに書かせることによって、講義への集中力を高めると同時に、学んだ内容について考える機会を設けるようにした。 農林体験セミナー、医療・健康・福祉実践、次世代産業実践、食と観光実践は、他大学との連携講義であり、授業や成績評価は担当する他大学の教員が行う。私は本学における担当者として、学生募集、事前説明会等の開催、他大学から伝達された成績をもとに成績評価などを行っている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会、日本科学者会議			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携センター長		
学外審議会委員等	三十三銀行NPO応援基金審査委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	津演劇鑑賞会幹事、三重短期大学生協理事		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
図書館長兼地域連携センター長と教員の二足の草鞋をはきながら仕事をしています。入試改革や広報活動の拡充、地域貢献活動の企画・運営などに追われ、研究活動は開店休業状態になっています。せめて、学生への指導だけは手を抜かないでやっていきたいと考えています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：大畑 智史
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「文化資源活用の視点からの関西広域連合への三重県の正式参加について：エックス税構想の意義」（『地研年報』29、三重短期大学地域問題研究所、2024年） 「エックス税の勤労意欲への影響」（『地研年報』29、三重短期大学地域問題研究所、2024年） 「経済成長とX税：政治学的視点から」（国際文化政策研究教育学会ワーキングペーパー、2024年）		
その他	「ミル租税論の現代的意義：新自由主義の弊害の克服に向けて」（『大阪税経新人会ニュース』585、大阪税経新人会、2024年5月） 「関西広域連合への三重県の正式参加について：文化資源活用の視点から」（地域産業研究会『地域産業総合研究』5、地域産業総合研究所、2024年7月） 「消費税改革と過度な所得格差問題」（『大阪税経新人会ニュース』588、大阪税経新人会、2024年8月） 「税務におけるICT活用の諸問題の解消策：拡張的クラウド型ERPの意義と課題」（GLCパートナーズ調査報告書、2024年） 「地方税と過度な所得格差」（『大阪税経新人会ニュース』592、大阪税経新人会、2024年12月） 「国際課税と過度な所得格差」（『税経新報』172、税経新人会全国協議会、2024年）		
学会等報告	「関西広域連合への三重県の正式参加について：文化資源活用の重要性の視点から」（2024年度地研研究交流集会、2025年3月） 「地方創生における公民共創について」（地域産業研究会 第13回定例研究会報告、2025年3月）		
共同研究 助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：財政学（法1、昼、後期、4）、財政学（法2、夜、前期、4）、地方財政論（法2、夜、後期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年 クラス担任（第1部・第2部）・経商基礎演習（第1部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー 2年 演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー、学外学習（自由参加、現地の方との交流を重視、吉野町方面（6月実施）・松阪市方面（1月実施）		
教育上の工夫	財政学（法1、昼、後期、4） 財政学の各事項（公共財、租税、国債、他）の重要な点を明瞭に説明することを心掛けている。また、財政学の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、などの取組みをしている。		
	財政学（法2、夜、前期、4） 財政学の各事項（公共財、租税、国債、他）の重要な点を明瞭に説明することを心掛けている。また、財政学の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、などの取組みをしている。		
	地方財政論（法2、夜、後期、2） 地方財政論の各事項（地方分権、地方税、地方債、他）の重要な点を明瞭に説明することを心掛けている。また、地方財政の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、などの取組みをしている。		
	経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 卒業論文作成の基礎固めを重視している。このため、地方創生の考え方やこれと関係する基礎知識を履修生が習得できるよう、地方創生の議論に欠かせない制度等の資料を提供したり、演習参加者との議論やプレゼンテーションの機会をできるだけ設けたりしている。		
	演習（法1、昼、通年、4） 卒業研究の議論ができるだけ深まるような工夫を行っている。例えば、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、卒業研究経過報告会・卒業研究最終報告会の実施、学外学習の実施、などの取組みを行っている。		
	社会科学演習（法2、夜、通年、4） 卒業研究の議論ができるだけ深まるような工夫を行っている。例えば、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、卒業研究経過報告会・卒業研究最終報告会の実施、学外学習の実施、などの取組みを行っている。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy、地域産業研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学出前講座（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会中部支部三重分会様）講師		
学外審議会委員等	大阪税経新人会 理事、基礎経済科学研究所 『経済科学通信』編集局員、地域産業研究会 事務局員（編集実務）・編集委員、日本科学者会議 三重支部幹事（会計）、三重県政府調達苦情検討委員会 委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
2 一言アピール 支出税構想の実際の意義についての分析を深めていこうと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：内部留保の経営分析、実質法人税負担率の算定分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	2025年版「税制改革の提言」法人所得課税について『KOKKO』2025.2月 執筆		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：会計学（法1、昼、前期、4）、会計学（法2、夜、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、税務会計論（法1、昼、前期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーを設定し学生指導を行った。クラス担任を務め、履修指導を行った。演習では卒業論文の作成指導を行った。就職面接対策、就職相談を行った。編入相談を行った。		
教育上の工夫	会計学（法1、昼、前期、4） 『市民が学ぶ決算書』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。 会計学（法2、夜、後期、4） 『市民が学ぶ決算書』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。 税務会計論（法1、昼、前期、2） 『会計制度と法人税制』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。 演習（法1、昼、通年、4） 通年を通して、各自、分析したい企業の決算書分析を行っている。決算書から基本指標を分析し、卒業論文としてまとめる事を目標にしている。 経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 『企業の論点』という拙著を教科書として、授業を行っている。教科書を輪読し、教科書の内容について討論を行っている。また、興味関心のあるテーマをレポートとして書かせている。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期は、『企業の論点』という拙著を教科書として、授業を行っている。教科書を輪読し、教科書の内容について討論を行っている。後期は、各自、分析したい企業の決算書分析を行っている。決算書から基本指標を分析し、卒業論文としてまとめる事を目標にしている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、会計理論学会、税務会計研究学会、国際公会計学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県公益認定等審議会 委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
企業の内部留保や法人税の負担率を分析することで、企業が抱える問題について明らかにしていきたいと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：古畑 淳
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：福祉行政における行政手続保障の研究、子どもの福祉をめぐる裁判例の研究			
2 研究活動実績			
著書	「第 16 章 保育を受ける権利と市町村の役割」菊池馨実、常森祐介編『判例から考える社会保障法』（日本評論社、2025 年）197～212 頁。		
論文			
その他	「判例研究 市長の専決処分による保育所条例の改正——専決処分の違法を理由とする改正保育所条例の制定行為の取消しと、改正条例の無効を理由とする保育所入所不可処分の取消しの訴え（東京地裁令和 6 年 2 月 22 日判決、小金井市立保育園廃止処分取消等請求事件、保育情報 570 号 15 頁）」三重法経 157 号（2025 年）99～126 頁。		
学会等報告			
共同研究	神奈川大学法学研究所「プロジェクト型共同研究2023～2026年度 障害法分野における法理論の構築」		
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：行政法（法 1、昼、前期、4）、地方自治法（法 1、昼、後期、2）、行政法（法 2、夜、後期、4）、法学基礎演習（法 1、昼、後期、2）、演習（法 1、昼、通年、4）、社会科学演習（法 2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任としての各種の指導、オフィスアワーを利用した学習指導、卒業研究の執筆指導、進学相談・試験対策指導（面接指導を含む）、就職相談・試験対策指導（面接指導を含む）などを行った。		
教育上の工夫	行政法（法 1、昼、前期、4） 毎回、パワーポイントのレジュメを作成・配付し、レジュメをスクリーンに投影するとの方法で講義を展開した。講義では必要に応じて板書も行い、制度の説明においては概念図を示すなどの工夫を行った。レジュメには、教科書の記述内容の要約に加え、重要判例の判旨の紹介や新聞報道の紹介などを内容に取り入れた（配付したレジュメはすべて Google のクラスルームにアップロードし、欠席した学生が次の講義までに学習できるようにした）。		
	地方自治法（法 1、昼、後期、2） 毎回、パワーポイントのレジュメを作成・配付し、レジュメをスクリーンに投影するとの方法で講義を展開した。講義では必要に応じて板書も行い、制度の説明においては概念図を示すなどの工夫を行った。レジュメには、教科書の記述内容の要約に加え、重要判例の判旨の紹介や新聞報道の紹介、さらに特徴ある条例の紹介などを内容に取り入れた（配付したレジュメはすべて Google のクラスルームにアップロードし、欠席した学生が次の講義までに学習できるようにした）。		
	行政法（法 2、夜、後期、4） 毎回、パワーポイントのレジュメを作成・配付し、レジュメをスクリーンに投影するとの方法で講義を展開した。講義では必要に応じて板書も行い、制度の説明においては概念図を示すなどの工夫を行った。レジュメには、教科書の記述内容の要約に加え、重要判例の判旨の紹介や新聞報道の紹介などを内容に取り入れた（配付したレジュメはすべて Google のクラスルームにアップロードし、欠席した学生が次の講義までに学習できるようにした）。		
	法学基礎演習（法 1、昼、後期、2） 法学文献と裁判例の調べ方、報告レジュメの作成の仕方と報告の仕方、研究倫理に関する事項などを教授した。その上で、ゼミ生が報告者となる個別報告の機会を設けた。報告は、ゼミ生各自が関心を寄せる行政分野で生じている問題、あるいは行政法の論点について行うこととし、報告に対する質疑・応答をゼミ生参加の方法で行った。		
	演習（法 1、昼、通年、4） 法学基礎演習につづく演習では、裁判例の読み方について教授し、ゼミ生が関心を寄せる行政法の論点、あるいは行政分野の裁判例について検討する機会を設けた。また、卒業研究の執筆指導として、テーマ設定と内容構成（章立て）のあり方、注の記載方法などを教授し、卒業研究の完成に向けて、数回に及ぶ報告、討論の機会を設けるなどした。		
	社会科学演習（法 2、夜、通年、4） 法学文献と裁判例の調べ方、報告レジュメの作成の仕方と報告の仕方、研究倫理に関する事項などを教授した。その上で、ゼミ生が報告者となる個別報告の機会を設けた。報告は、ゼミ生各自が関心を寄せる行政分野で生じている問題、あるいは行政法の論点について行うこととし、報告に対する質疑・応答をゼミ生参加の方法で行った。また、卒業研究の執筆指導として、テーマ設定と内容構成（章立て）のあり方、注の記載方法などを教授し、卒業研究の完成に向けて、数回に及ぶ報告、討論の機会を設けるなどした。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、日本社会保障法学会、日本社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本保育学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学高大連携文章講座講師「文章作成の技法と実践 ― 社会とつながり、考える」（2024年8月19日、8月23日）		
学外審議会委員等	公益財団法人社会福祉振興・試験センター 社会福祉士試験委員 豊明市、日進市及び東郷町における行政不服審査会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

3 一言アピール

子どもの福祉の実現のための行政手続保障のあり方について研究しています。また、最近では、デンマーク社会への関心から、STUと呼ばれるデンマークの特別のニーズを有する若者のための教育制度について研究しています。子どもや若者に焦点を当て、行政法と地方自治法の研究に取り組んでいきたいと考えています。

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：今本 幸平
I 研究活動		
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告	「悲劇『アルマンゾル』について—アルマンゾルとスレイマにおける「愛」の成就について」ハイネ遺稿の会第50回例会、2024年11月1日、大阪市総合障害学習センター	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生および長期履修生（2～3年生）のクラス担任として学生の履修指導を行った。 オフィスアワー：火曜1300-1430	
教育上の工夫	ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2） 文法事項の説明や練習問題の解答には板書を行わず、ほぼ全てパワーポイント資料を用いた。文字の大きさや音声の挿入など、資料の改善を進めたい。 ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2） 少人数であったが、出席者は全員熱心に取り組んでくれた。昼間の講義と同様にパワーポイントを使用した。要点を整理しやすくなった点が良かった。資料の改善を今後も進めたい。 ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2） 扱う文法事項はドイツ語Ⅰとほぼ同じだが、ドイツ語Ⅰでは文法中心に学習したのに対して、この講義では口頭でのドイツ語表現の練習を中心に行った。少人数のクラスだが、その分個々の学生に応じた指導が行えた。 文学Ⅰ（共通、昼、前期、2） 普段あまり読書をしていないという学生向けに、読んでみようという気持ちに少しでも起きるよう、予備知識を与えるという方針で講義を行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。 文学Ⅰ（共通、夜、前期、2） 読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて予備知識を与えるという方針で講義を行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。 文学Ⅱ（共通、昼、後期、2） ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、親しみやすいと思われる作品を選んで、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。 文学Ⅱ（共通、夜、後期、2） ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、親しみやすいと思われる作品を選んで、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い別世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ遺稿の会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田添 篤史
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：社会システムの再生産およびその方向性、デジタル化の進展と経済への影響			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	「日本経済の供給能力と労資関係」基礎経済科学研究所2025年春季研究交流集会(2025年3月) 「A Study on Impacts of Platform Capitalization on Capital Accumulation」経済理論学会第72回大会(2024年9月) 「日本社会の再生産可能性に関する検討」経済統計学会第68回研究大会(2024年9月)		
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、経済原論（法1・生活、昼、前期、4）、経済原論（法2、夜、前期、4）、経済学史（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	経商コースの1部および法経科2部のクラス担任を受け持ち各種の指導を行った。 ゼミ生に対して編入・就職指導を個別に行った。		
教育上の工夫	経済原論（法1・生活、昼、前期、4） 教科書をベースとして要点を抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。毎回の授業の冒頭で前回の復習を行い、知識の定着を図った。また理解が難しいと思われる箇所については、繰り返し説明するようにした。Googleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。 経済原論（法2、夜、前期、4） 昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、昼の講義で不十分だった点を反省し、夜の講義において説明方法、板書内容の改善を行った。 経済学史（法1、昼、後期、2） 経済学史で取り扱う学者たちの理論は、現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに要点となる考え方が理解しやすい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかむことを意図した説明を行った。経済原論と同様にGoogleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。 演習（法1、昼、通年、4） 前期ではプラットフォーム資本主義に関するテキストを輪読し、後期では個々人で卒業論文の作成とその発表を行うことで自分の意見をまとめていくという形式をとって行なった。これに加えて後期では現代経済を理解する上で重要と思われるトピックを適宜選択して取り扱った。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期ではテキストの輪読を行い、それを通して自分の興味ある課題を見つけるという点に重点を置いた。後期では個々人で卒業論文の作成を行い、それを発表するという形で進めた。 経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 2年生から始まる演習との連続性を意識し、文献の収集方法、データの集め方、論文を作成するうえで基本となるルールの説明を行った。経済に関する論文を複数紹介し、その輪読を行なった。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所理事、基礎経済科学研究所編集局員、三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
ある社会システムが物質的および制度的に安定的に再生産されるのはどのような場合か、また再生産の方向性は各主体の決定によってどのような影響を受けることになるのかという点について研究を行っています。またデジタル化に伴って行われる投資のあり方が、経済に対してどのような影響を及ぼすのかについての研究も行なっています。 教育面では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：浅野 和也
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：自動車産業における労使関係・労務管理研究			
2 研究活動実績			
著書	「第9章 働きすぎと労働時間・安全衛生」佐藤飛鳥・浅野和也・橋場俊展編著『入門 人的資源管理論』法律文化社、2024年10月、144-158頁。		
論文			
その他	「書評 小松史朗『日本的生産システムにおける労働と管理』」『大原社会問題研究所雑誌』No.787、2024年5月、64-69頁。 「自動車産業」大原社会問題研究所編『2024年版 労働年鑑 第94集』旬報社、2024年6月、223-226頁。 「書評 鈴木誠『職務重視型能力主義—三菱電機における生成・展開・変容』」『日本労働社会学会年報』第35号、2024年12月、140-145頁。		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：経営学（法1、昼、前期、4）、経営学（法2、夜、後期、4）、人的資源管理論（法2、夜、前期、2）、 経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任、論文指導、就職指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	経営学（法1、昼、前期、4） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。 経営学（法2、夜、後期、4） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。 人的資源管理論（法2、夜、前期、2） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。人的資源というと、経営者が人材を有効活用するためのツールと思われがちなので、働く側からの視点に重点を置いた内容で講義を実践した。なぜ働きすぎによる過労死や過労自殺、うつ病などが社会問題化しているのか制度や構造的な問題、それが私たちの生活に与える影響などについて幅広く扱った。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。 経商基礎演習（法1、昼、後期、2） グループディスカッションを中心に議論する力とコミュニケーションを培うように努めた。演習内でパワーポイント資料を作成しプレゼンを実施した。 演習（法1、昼、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をしてもらい、内容について議論した。あわせて、就職指導を行った。小論文・作品コンクールに演習として論文を提出した。また、就職・編入学指導の結果、三重大学・岐阜大学・南山大学に合格した。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をしてもらい、内容について議論し、卒業論文作成と指導を行った。また、就職・編入学指導の結果、三重大学と富山大学に合格した。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	令和6年度三重短期大学オープンカレッジ講師（2024年10月6日）、出前講座（尾鷲高校、2024年7月10日）		
学外審議会委員等	社会政策学会秋季大会企画委員、労務理論学会理事、北ヨーロッパ学会理事・学会誌編集委員、三重県地域職業能力開発促進協議会委員、若年者地域連携事業協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名城大学都市情報学部「企業の経営」「事業のマネジメント」		
3 一言アピール			
経営学をはじめ社会科学を学ぶことをつうじて、社会は多種多様な価値観で形成されているからこそ論理的考察が重要であることを感じてもらえたらと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川上 哲
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：デジタル改革の分析、戦後地方自治史研究、大都市部住民の政治意識分析			
2 研究活動実績			
著書	山本由美・久保木匡介・川上哲編著『徹底検証 東京都政 巨大再開発、DX・GXで東京のまち・自然が破壊される』（旬報社、2024年5月、共著）		
論文	○2024 年東京都知事選挙の分析-「石丸現象」をどのように読み解くか（『住民と自治』738 号、34-37 頁、2024 年 9 月） ○2024 年東京都知事選挙をどう読み解くか-「石丸現象」と都議補選結果の分析（月刊『東京』457 号、24-31 頁、2024 年 9 月） ○2024 年衆議院議員総選挙の分析-自公政権からの転換に結びつく画期となるか（『住民と自治』741 号、29-32 頁、2024 年 12 月）		
その他			
学会等報告	○2024年東京都知事選挙の論点（東京都政史研究会報告、2024年8月5日） ○美濃部都政における社会保障政策の論点と課題-老人医療費無料化政策の意義と課題（東京都政史研究会報告、2024年11月10日） ○美濃部都政による老人医療費無料化政策の導入過程-老後保障運動としての無料化政策（東京都政史研究会報告、2025年1月11日）		
共同研究 助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：行政学（法1、昼、後期、4）、行政学（法2、夜、前期、4）、地方政治論（法1、昼、前期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	行政学（法1、昼、後期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。 行政学（法2、夜、前期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。 地方政治論（法1、昼、前期、2） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。 法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。ゼミでの報告の方法や文献の調べ方や読み方など、基本的なアカデミック・スキルについての指導を行った。また受講生同士の議論が深まるような問いかけを中心に授業を実施した。 演習（法1、昼、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。受講生の主体性を引き出すため、報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本行政学会、日本地方自治学会、社会政策学会、同時代史学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「行政のデジタル化とは何かーその課題と論点を中心に」（地域連携センター2024年度オープンカレッジ講演、2024年8月3日）		
学外審議会委員等	○松阪市議会 議員定数等在り方調査会 副会長（松阪市議会、2024年7月-2024年10月） ○津市窓口等業務プロポーザル方式審査委員会 外部委員（津市役所、2024年9月）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	新聞取材「地元識者に聞く（下）投票率 政権交代と関わり」（中日新聞（三重版）2024年10月13日付）		
他大学非常勤講師	三重大学（行政学）、三重県立看護大学（保健福祉行政論）		
3 一言アピール			
地方行政のデジタル化・DX化政策が進められています。こうした「デジタル改革」が地方自治体や地域にどのような影響を及ぼしていくのかを注視しています。また歴史研究として東京都を中心とした革新自治体研究も進めているところです。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：西川 昇吾
I 研究活動			
1 研究課題： 労働協約・争議行為法理論の比較法研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「ドイツにおける連結要求事項を目的とする争議行為の適法性—スクランブルエッグ理論」労働法律旬報 2057 号 21～39 頁（2024 年 6 月 10 日）		
その他	「無期転換後の労働契約の『終了』をめぐる団体交渉における誠実交渉義務—A 大学不当労働行為審査事件＝三重県労委命令 5・10・2 中労委命令・裁判例データベース No.M-R05-070」地研通信 152 号 5～10 頁（2025 年 3 月 21 日）		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目： 労働法（法 1、昼、前期、4）、労働法（法 2、夜、後期、4）、社会保障法（法 1・生活、昼、後期、2）、演習（法 1、昼、通年、4）、法学基礎演習（法 1、昼、後期、2）、社会科学演習（法 2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	写真部「色撮（いろどり）」顧問		
学内教育活動（その他）	クラス担任、オフィスアワー、就職受験作文添削・面接対策指導、大学 3 年次編入受験「志望理由書」添削・面接対策指導		
教育上の工夫	労働法（法 1、昼、前期、4） 労働法学の正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤とした論理展開ができるよう、とりわけ法的意義や法的根拠、要件等の伝達に留意した。 労働法（法 2、夜、後期、4） 受講学生のなかには、社会人経験者も見受けられることから、労働法理論の解説はもとより、その法的対処・解決の見当がつきうる知識・情報等の伝達を心がけた。 社会保障法（法 1・生活、昼、後期、2） 社会保障制度の概要を中心としつつも、今後の同制度を担う受講学生が、その望ましいあり方についての自己の見解をもてるよう、法的課題の伝達に注力した。 演習（法 1、昼、通年、4） 検討する労働法の争点において確認しなければならない判例・学説の報告と、その後の討論を通じて、論理的思考や自己主張ができる場の構築に努力した。 法学基礎演習（法 1、昼、後期、2） 労働判例の検討を通じて、企業という現場の実情が想像でき、紛争当事者のやり取りの臨場感も再現できるよう、多角的な問いを發した。 社会科学演習（法 2、夜、通年、4） 労働事件をどのように解決するかという視点だけでなく、どのような行動をとれば紛争を回避できたかという視角からの討論となるよう、質問等を工夫した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会： 日本労働法学会、社会法研究会、熊本労働法研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「最低賃金制度の概要と課題」令和 6 年度 三重短期大学オープンカレッジ（三重短期大学 校舎棟 4 階 41 番教室・2024 年 7 月 6 日）		
学外審議会委員等	三重地方最低賃金審議会 公益委員 三重県労働委員会 公益委員 三重県行政不服審査会 委員 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 三重県福祉サービス運営適正化委員会 副委員長		
学外講演会講師等	「障がい者雇用の基本的な考え方～事例を踏まえて～」三重労働局・三重県・公共職業安定所 共催「令和 6 年度 公正採用選考研修会」講師（三重県鈴鹿庁舎 4 階 第 46 会議室・2024 年 9 月 18 日、三重県桑名庁舎 3 階 第 1 会議室・9 月 27 日）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
社会法を学ぶことは、みずからの生き方を考えることでもあると解されます。学生一人ひとりが、今後の望ましい労働者像・社会保障制度について、自分なりの見解をもってもらえるよう、研究・教育活動に取り組む所存です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鎌塚 有貴
I 研究活動			
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「コロナ下の ICT 教育環境整備に関する財政的課題」財政法叢書 39 巻（2024 年）179-193 頁		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：日本国憲法・憲法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4）、憲法（生活、昼、前期、4）、憲法Ⅱ（法Ⅰ、昼、後期、2）、日本国憲法・憲法Ⅰ（法Ⅱ、夜、後期、4）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、編入学試験対策・指導		
教育上の工夫	日本国憲法・憲法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4） ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。 憲法（生活、昼、前期、4） ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。 憲法Ⅱ（法Ⅰ、昼、後期、2） ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。 日本国憲法・憲法Ⅰ（法Ⅱ、夜、後期、4） 判例の解説に重点を置き、理解を深めるよう努力した。 法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2） 講義の復習をしながら、現代社会における問題など発展的な課題に取り組んだ。 演習（法Ⅰ、昼、通年、4） 各自報告テーマを選択し、発表した。 社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4） 学生の自主的な取り組みによる発表形式のゼミを運営した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会、日本財政法学会、民主主義科学者協会法律部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市いじめ対策会議会長、津市いじめ問題対策協議会委員、鈴鹿市情報公開審査会委員、鈴鹿市行政不服審査会委員、鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会・鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員、鈴鹿市個人情報保護審査会委員、三重県自動車廃物認定委員、亀山市行政不服審査会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	中部大学「日本の憲法」、愛知大学「憲法学」・「法学概論」		
3 一言アピール 教育と研究を両立できるよう頑張ります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：照井 遥瑛
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：複数の不法行為者に対する連帯責任と分割責任の正当化根拠に関する日米比較研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	・照井遥瑛「大気汚染・水質汚濁に対する事業者の責任」21世紀不法行為法研究会（2025年3月22日） ・照井遥瑛「『強い関連共同性』と『弱い関連共同性』という民法の条文にない概念はどのような経緯で生まれたのか—四日市公害訴訟再考—」第71回地域問題研究交流集会（2025年3月6日） ・照井遥瑛「共同不法行為論における連帯責任と分割責任の正当化根拠に関する研究—アメリカ法の議論を手掛かりとして—」明治大学民法研究会（2025年1月23日） ・照井遥瑛「共同不法行為論における連帯責任と分割責任の正当化根拠に関する研究—アメリカ法の議論を手掛かりとして—」名城大学民法研究会（2024年7月20日） ・照井遥瑛「共同不法行為論における連帯責任と分割責任の正当化根拠に関する研究—アメリカ法の議論を手掛かりとして—」名古屋大学民事判例研究会（2024年7月13日）		
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：民法Ⅰ（法1、昼、前期、4）、民法Ⅰ（法2、夜、前期、4）、民法Ⅱ（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	民法Ⅰ（法1、昼、前期、4） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。 民法Ⅰ（法2、夜、前期、4） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。 民法Ⅱ（法1、昼、後期、2） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。 法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 前半では、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、法文の解釈方法、判決文の読み方といった卒業論文の執筆に必要な不可欠な法律リテラシーを教員・ゼミ生の双方向のコミュニケーションを取りながら身に付けてもらうよう心掛けた。後半では、自分の考えを他者に論理的に説明する力を身に付ける訓練として、関心のある民法上のテーマや論点についてゼミ生各自に報告をしてもらい、かつ参加者から報告に対する質問や疑問を出してもらうことで、法的な問題を発見する力や簡潔に報告する力の向上を図った。 演習（法1、昼、通年、4） 卒論執筆に必要な基礎知識を伝えただけで、ゼミ生各自の卒論テーマについて、1回につき、1～3名のゼミ生に経過報告をしてもらい、かつその報告に対して他の参加者から疑問点や意見を出してもらうことで、論理的な思考力や論理的な文章を書く力の向上を図った。また、報告及び質疑応答に際して、教員側から論文執筆の作法を適宜全体に示した。最終的には、各自に10000～20000字程度の卒論を執筆してもらい、卒業論文集として纏めることができた。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期では、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、法文の解釈方法、判決文の読み方といった卒業論文の執筆に必要な不可欠な法律リテラシーを伝えただけで、自分の考えを他者に論理的に説明する力を身に付ける訓練として、関心のある民法上のテーマや論点についてゼミ生各自に報告をしてもらい、かつ参加者から報告に対する質問や疑問を出してもらうことで、法的な問題を発見する力や簡潔に報告する力の向上を図った。後期では、ゼミ生各自の卒論テーマについて、毎		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

回1名ずつ経過報告をしてもらい、かつその報告に対して他の参加者から疑問点や意見を出してもらうことで、論理的な思考力や論理的な文章を書く力の向上を図った。また、報告及び質疑応答に際して、教員側から論文執筆の作法を適宜全体に示した。最終的には、各自に10000～15000字程度の卒論を執筆してもらい、卒業論文集として纏めることができた。	
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、環境法政策学会、日本土地環境学会、人間環境問題研究会、日本科学者会議三重支部	
2 社会活動実績	
地域連携事業	高大連携授業「契約トラブルから身を守るためには？」（2025年3月6日、飯野高等学校）
学外審議会委員等	
学外講演会講師等	
その他の社会活	
他大学非常勤講師	愛知大学法学部「物権法」・「担保物権法」、南山大学経済学部「民法A」・「民法B」
3 一言アピール 「人はなぜ他人の犯した過ちに対しても損害賠償責任を負うことがあるのか」という問いに対する理論的見解について民法の共同不法行為の条文とアメリカの判例を手掛かりにして研究しています。民法は私達の日常生活と切っても切り離せない関係にある法律であるということを伝えることができるよう、今後も研究・教育活動に努めていきたいと思っています。	

津市立三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：柏崎 早陽子
I 研究活動			
1 研究課題：正当防衛			
2 研究活動実績			
著書			
論文	柏崎早陽子「わが国の正当防衛規定が抱える問題点とその修正の試み」三重法経 157 号 1-30 頁（2025 年 3 月）		
その他			
学会等報告	柏崎早陽子「正当防衛の新規定の提案に向けた検討—ドイツの草案を参考に—」（日本刑法学会名古屋部会、2024 年 12 月）		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法 1、昼、前期、4）、刑法（法 2、夜、後期、4）、刑事政策（法 1、昼、後期、2） 法学基礎演習（法 1、昼、後期、2）、演習（法 1、昼、通年、4）、社会科学演習（法 2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーの時間内外問わず学生対応を行い、時間割の作成に関する相談や進路相談など、様々な相談に応じた。ゼミでは、学外演習として津地方裁判所や三重県警を訪れた。編入対策としては、小論文の添削や面接練習を複数回実施し、学生にアドバイスを行った。卒論作成に向けて、論文の書き方やテーマの選定などについてアドバイスを行った。		
教育上の工夫	刑法（法 1、昼、前期、4） 授業ではパワーポイントを使用し、絵図やアニメーションを付けるなどして、文字だけでなく視覚的にも情報を得られるように工夫した。適宜小テストを実施して理解度を図るとともに、問題に対する解説を行い、復習に役立てた。質問も随時受け付け、質問内容に応じて、質問とそれに対する回答を授業全体で共有し、知識のさらなる獲得に努めた。 刑法（法 2、夜、後期、4） 授業ではパワーポイントを使用し、絵図やアニメーションを付けるなどして、文字だけでなく視覚的にも情報を得られるように工夫した。適宜小テストを実施して理解度を図るとともに、問題に対する解説を行い、復習に役立てた。質問も随時受け付け、質問内容に応じて、質問とそれに対する回答を授業全体で共有し、知識のさらなる獲得に努めた。 刑事政策（法 1、昼、後期、2） 授業ではパワーポイントを使用し、絵図やアニメーションを付けるなどして、文字だけでなく視覚的にも情報を得られるように工夫した。時事問題等を授業内容に積極的に反映した（拘禁刑など）。適宜小テストやリアクションペーパーを実施して理解度を図るとともに、問題に対する解説を行い復習に役立てた。質問も随時受け付け、質問内容に応じて、質問とそれに対する回答を授業全体で共有し、知識のさらなる獲得に努めた。 法学基礎演習（法 1、昼、後期、2） 卒論作成の前段階として必要な知識（条文、判例の読み方、論文や資料の作成の仕方等）を扱い、その後、1冊の本を輪読した。報告担当者を毎回決めて報告してもらい、報告に対して他の学生および教員から質問やコメントを行った。これにより、前期の講義内容の復習と講義の応用的な内容を取り扱った。また、全ゼミ生に対して適宜面談を実施し進路などの相談に応じた。 演習（法 1、昼、通年、4） 卒論の完成に向けた指導として、論文の書き方やテーマ選定におけるアドバイス等を行った。卒論テーマの決定後は、卒論の執筆内容に関する報告を行ってもらい、報告に対して他の学生および教員から質問やコメントを行った。これにより、卒論のブラッシュアップに努めた。編入希望の学生に対しては、小論文の添削や面接練習を複数回実施した。また、全ゼミ生に対して適宜面談を実施し、進路などの相談（主に編入）に応じた。 社会科学演習（法 2、夜、通年、4） 章ごとの報告担当者を決めて、少年法に関する本を輪読しながら、少年法への理解を深めるとともに資料や論文の作成方法等を教授した。卒論の完成に向けて、卒論の執筆内容に関する報告を行ってもらい、報告に対して、他の学生および教員から質問やコメントを行った。これにより、卒論のブラッシュアップに努めた。また、全ゼミ生に対して適宜面談を実施し、進路などの相談に応じた。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市青少年問題協議会 副会長（2024年10月～現在に至る）		
学外講演会講師等	進路ガイダンス模擬授業「社会と刑法～死刑について～」（2024年12月17日、於：四日市西高校）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 2024年度は、現行刑法における正当防衛規定について改める必要性があると考え、ドイツ法を参考に研究を進め、論文を執筆するとともに、学会（部会）報告も行った。次年度も引き続き正当防衛を中心に研究を進めつつ、研究結果を教育等に反映したい。 （研究テーマの応用例：国家あるいは私人による救助のための拷問と正当防衛）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：教授	氏名：駒田 亜衣
Ⅰ 研究活動			
1. 研究課題：県民健康・栄養調査の評価に関する研究 特定健診・特定保健指導に関する研究 ソーシャルメディアを活用した食生活・意識向上に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	・栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学概論第3版（共同執筆）講談社（2025.3）		
論文	・Evaluating the effectiveness of LINE-based health interventions on dietary habits and health perceptions among young women: A pilot randomized controlled trial, Makoto Ohtsuki, Ai Komada, Hiromi Okada, Kanako Furuta, Yuki Aikawa and Yoriko Umehara. DIGITAL HEALTH Volume 10: 1-14 (2024.10)		
その他	・令和5年度三重短期大学 共同研究報告書「令和4年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」（2024.12）		
学会等報告	・健診関連用語の Web 検索状況とヘルスリテラシーの関連について（共同報告）、山田真司、駒田亜衣、熊谷貴子、2024 年電子情報通信学会総大会（2024.3） ・健康づくり実践企業における食事調査の実施と食生活・栄養の課題（共同報告）、駒田亜衣、井川裕子、第 71 回日本栄養改善学会（2024.9）		
共同研究 助成研究	・津市保健医療助成課との共同研究（特定健診・特定保健指導のデータ解析）		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食運営管理論（食栄、昼、後期、2）、給食運営管理論実習Ⅰab（食栄、昼、前期、2）、給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、給食運営管理論実習Ⅲ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	フェアトレード部顧問、園芸部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	調理学（食栄、昼、前期、2） 食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。 栄養価計算については、成分表の食品項目の確認を丁寧に行った。 調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 前期の同実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。「給食運営総合指導」を担当いただいている非常勤講師とも連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。 給食運営管理論（食栄、昼、後期、2） 大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。 給食運営管理論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、2） 同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。 給食運営管理論実習Ⅱ・（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナーに関する講義、課題研究に積極的に取り組めるよう事前準備等指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。また、実習後は報告資料の作成し報告会を開催した。 給食運営管理論実習Ⅲ（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。 校外実習の受け入れが変更になった施設や日程が変更になったケースもあったため、実習先と密な連携をとりながら学生に不利益がないよう対応した。 特別演習（食栄、昼、通年、4） 栄養士として働くうえで重要な大量調理の食事計画について学び、その成果としてランチ会を学内で開催した。また、レシピコンテストのための献立作成や試作を行い、毎年作品を応募している。さらに、調理実習として世界の料理を学ぶ機会を設け、外国人講師を招いて国際交流も行った。これら活動内容はレポートにまとめ、成果物とした。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

地域連携事業	・「世界の料理講座（調理実習）」の開催 津市国際交流協会（2024年6月27日、11月14日） ・高大連携授業講座「製菓実習」講師の受け入れ 相可高校
学外審議会委員等	津地域栄養管理ネットワーク研究会委員 三重県栄養士会理事
学外講演会講師等	・津市ヘルスメイトリーダー研修会講師（津保育所施設長連絡協議会、津リージョンプラザ栄養指導室）（2024年9月） 実習内容「バランスのとれた食事（講義・調理実習）」 ・栄養ケアステーション 講師（三重県栄養士会、津市）（2024年2月） 講演内容「県民健康・栄養調査結果の概要」
その他の社会活動	・ZTV 制作番組「おしえて先生」出演、フレイル予防の食事について対談（2024年2月放送）
他大学非常勤講師	
3 一言アピール 食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、県民健康・栄養調査や市町の食事調査、特定健康診査・特定保健指導の結果をいろいろな観点から探り性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。 （研究テーマの応用例： 地域における食生活の問題点と課題、有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：教授	氏名：阿部 雅里
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：和食に関する研究、栄養教育の有効性に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	栄養教育論、編集 関口紀子、藤迫栄美子、宇和川小百合、分担執筆、学建書院、2024年4月、ISBN：978-4762488573		
論文	(1) 乳幼児の母親の習慣的な栄養素摂取量の実態と食経験・食意識との関連、阪野朋子、佐喜真未帆、間宮貴代子、阿部雅里 (2025) 食生活研究 45 (1) 44-54. (2) Global changes in Mediterranean Diet Score: A Comparative study over 52 years using FAOSTAT database. Ayako Sezaki, Tomoko Imai, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Chisato Abe, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Sugihara and Hiroshi Shimokata (2024). 名古屋学芸大学健康・栄養研究所年報 第16号 P1-10. (3) Global associations of the traditional Japanese diet score with hypertension prevalence and systolic blood pressure from 2009 to 2019: a cross-sectional and longitudinal ecological study. Abe C, Imai T, Sezaki A, Miyamoto K, Kawase F, Shirai Y, Sanada M, Inden A, Sugihara N, Honda T, Sumikama Y, Nosaka S, Shimokata H. J Am Nutr Assoc. (2024) 43(8):678-685. doi: 10.1080/27697061.2024.2374408. (4) Traditional Japanese diet score and the sustainable development goals by a global comparative ecological study. (2024.3). Tomoko Imai, Keiko Miyamoto, Ayako Sezaki, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Chisato Abe, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Norie Sugihara, Toshie Honda, Yuta Sumikama, Saya Nosaka and Hiroshi Shimokata. Nutrition Journal. 23(1):38. doi: 10.1186/s12937-024-00936-2.		
その他			
学会等報告	(1) ビタミンE摂取量と脳梗塞死亡率および脳出血死亡率との関連—国際比較研究. 第34回ビタミンE研究会（名古屋）2025.1 (2) 和食スコアと虚血性脳梗塞発症率および死亡率との関連—9年間の縦断解析. 第71回日本栄養改善学会学術総会（大阪）2024.9 (3) ナトリウム摂取量と認知症有病率との関連—9年間の国際比較研究. 第78回日本栄養・食糧学会大会（福岡）2024.5 その他共同発表者として国内学会に8報、国際学会に3報発表した。		
共同研究 助成研究	(1) 科学研究費基金 基盤研究 (C) 課題番号22K02194「和食パターンと主要な疾病の死亡・発症・有病率—30年間の国際比較研究—」2022-2025年度 (2) 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査 (3) 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 (4) 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：栄養教育論（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1）、栄養指導論（食栄、昼、後期、2）、栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1）、食物栄養学入門（食栄、昼、前期、2）、給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスアワー、就職・編入学指導等個別相談		
教育上の工夫	栄養教育論（食栄、昼、前期、2） 栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートを用い、学生の教育方法への理解を深めるのに努めた。 栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1） 個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習を行うためのサポートを行った。 栄養指導論（食栄、昼、後期、2） ライフステージ別の対象者に対応した栄養指導のあり方と方法論について、スライドとプリントを用いながら講義した。講義内容が多く、学生は付いてくるのが大変だったと思うが、毎回の感想では、良く学習している姿が伺えた。また、毎回出席カードを用いて質疑応答をしたところ、たくさんの学生から質問が出ており、教科内容や栄養士について興味を深めたのが伺えた。 栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1） 栄養指導教室の企画のプレゼンテーションと実施を行った。自主的にまとめる内容が多く、この2年間の集大成になったという意見が多かった。また、パワーポイントの使い方、人前での発表の仕方なども勉強になったという意見も多く出た。 管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2） 栄養士実力認定試験、管理栄養士国家試験に向けて、各教科のまとめの講義をオムニバス方式で行った。 給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識とマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。実習施設ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別対応を行った。 特別演習（食栄、昼、通年、4） 食や健康に関する情報を自ら選択できるよう、栄養学研究の基本を教授した。興味のある課題を学生自身で設定し、解決に至るまでの方法論を教授し、卒業論文指導を行った。なおその一部を本学の小論文・作品コンクールに応募し学長賞および佳作を獲得した。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本栄養学会、日本ビタミン研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

地域連携事業	(1)「三重県の食文化を知ろう：調理実習」四日市農芸高校高大連携事業講師2024年9月 (2)「栄養教育論」三重短期大学令和6年度 管理栄養士国家試験対策講座講師2024年11月
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部庶務幹事兼参与、日本栄養改善学会評議員、日本栄養改善学会東海支部幹事、令和6年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」審査委員長
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール 世界で健康に良いとされる食事の中に、日本の伝統的な食文化である和食がありますが、日本人だけではなく世界を対象とした和食パターンと健康長寿につながる各疾病の死亡・発症・有病率との関連は、まだ明らかになっていません。そこで和食パターンが100か国を超える世界規模において、健康長寿に関連する各疾患の死亡・発症・有病率の低下と関連するか、国際データを用いて明らかにする研究を進めています。 (研究テーマの応用例：子どもに対する和食教育について)	

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：准教授	氏名：相川 悠貴
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨と筋に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、登山時の生理的変化			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Ohtsuki M, Komada A, Okada H, Furuta K, Aikawa Y, Umehara Y. Evaluating the effectiveness of LINE-based health interventions on dietary habits and health perceptions among young women: A pilot randomized controlled trial. Digit Health. 10:20552076241300740. 2024 年 11 月.		
その他			
学会等報告			
共同研究	科研費 基盤研究C「一時的なエネルギー充足と体重変動は痩身女性アスリートの低骨密度を改善できるか？」（代表者）（課題番号：JP23K10707）		
助成研究	科研費 基盤研究C「機械刺激による筋肥大のエピジェネティック・メモリーと加齢によるその抑制」（分担者）（課題番号：JP23K10546）		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：解剖生理学（食栄、昼、前期、2）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、運動保健学（食栄、昼、後期、2）、健康管理概論（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	解剖生理学（食栄、昼、前期、2） 人体を構築する器官・臓器・組織の形態・構造・働きについて、栄養の消化吸収や栄養士の疾病対策に特にかかわりの深い消化器を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。		
	解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1） 人体の構造と機能に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。自身の身体を使った実験や、日常では観察することができない臓器切片的の観察を行わせ、理解を深めさせた。		
	運動保健学（食栄、昼、後期、2） 健康のために有効な運動の知識を身に付けさせるため、基礎的な内容に加えて、最新の知見を紹介した。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。		
	健康管理概論（食栄、後期、2） 健康管理の制度について、栄養士が関連する内容について、ライフステージ毎の知識を身に付けさせた。学生の興味を引くため、最新の社会ニュースや動画をを用い、学生でも用いられる制度の紹介を行った。授業毎に小テストを行い、知識の定着度を確認した。		
	生化学（食栄、昼、前期、2） 糖質・脂質・タンパク質の構造とその生体内代謝機構について、栄養学や食品学の理解につながる内容を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。		
	生化学実験（食栄、昼、前期、1） 生化学に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。一部では遠隔授業を実施した。試薬を用いて、実験の基礎を身につけさせつつ、生体内で起こる化学反応を実験室で調べた。		
	特別演習（食栄、昼、通年、4） スポーツ栄養サポート、骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養・食糧学会、日本スポーツ栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学出前講座「競技力向上のための栄養」2024年9月 管理栄養士国家試験対策講座「人体の構造の機能及び疾病の成り立ち」2024年10月 高大連携授業出前講座「重量認知差試験、棒反応試験」2024年11月 高校陸上競技部栄養サポート 2023年6月～		
学外審議会委員等	日本スポーツ栄養学会評議員・編集委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	三重大学「スポーツ健康科学b（テニス）」		
3 一言アピール 非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて解明していきます。 （研究テーマの応用例：健康教室の実施）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：講師	氏名：杉野 香江
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：食品摂取と血糖値上昇に関する研究 食品成分の呼吸器感染ウイルス増殖抑制作用に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	・ 杉野香江 フラボノイドの呼吸器感染ウイルス増殖抑制作用 第13回日本栄養改善学会東海支部会学術総会 (2024.6) ・ 杉野香江、大平瑞玖、河瀬絢名、駒井榛佳、澤村優希、中野美月、西岡美玖、松田蒼彩、南川朝香、宮本楓 白砂糖代替食品を使用したクッキーの食後血糖値変化 第71回日本栄養改善学会 (2024.9)		
共同研究 助成研究	・ 令和6年度豆類振興事業助成研究 「発酵小豆摂取が食後血糖上昇に及ぼす影響－発酵小豆のセカンドミール効果について」(研究代表者) (2024.4～2025.3) ・ 三重大学大学院医学系研究科リサーチアソシエイト		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：応用栄養学Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、応用栄養学Ⅱ（食栄、昼、前期、2）、栄養学（食栄、昼、後期、2）、食生活論（生活、昼、前期、2）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、応用栄養学実習（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問、茶道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）食栄2年生就職指導、食栄2年生編入学指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	応用栄養学Ⅰ（食栄、昼、前期、2） 15回の限られた時間で多くの内容を理解してもらうため、パワーポイントで要点をまとめ、かつ資料を配布することで、復習をしやすいように工夫している。また、特に重要なポイントは書き込み欄を設けることで、記憶に残りやすいよう配慮した。講義では、学生の興味を引くよう、献立例や症例の写真等を取り入れている。		
	応用栄養学Ⅱ（食栄、昼、前期、2） 栄養管理において重要となる食事摂取基準の基礎的理解、運動と栄養、特殊環境と栄養の3部構成とし、テーマごとに小テストを実施することで知識が定着するよう工夫した。要点をまとめたパワーポイントと資料配布は、応用栄養学Ⅰと同様の形式にて実施している。		
	栄養学（食栄、昼、後期、2） 栄養士必修科目かつ卒業必修科目であり、栄養士養成のための基礎的な知識を習得する必要があることから、生化学等の復習も交えながらゆっくりと丁寧に説明することを心掛けている。資料については、重要なポイントや覚えるべき内容に書き込み欄を設け、記憶に残りやすく、また復習しやすいよう工夫した。		
	食生活論（生活、昼、前期、2） 複数の専攻の学生が受講することから、栄養学や食品学の入門の内容を丁寧に講義した。食に関する社会問題や、世間で見かける健康情報などの身近な話題に触れることで、学生の興味を引く工夫した。		
	栄養学実験（食栄、昼、後期、1） 栄養素の特徴や消化・吸収、代謝についてなど、栄養学の講義で学んだ知識をより深めることができる実験・演習内容にしている。実験を行うだけでなくとどまらず、データについて十分に考察できるようにレポートの課題内容を工夫した。		
	応用栄養学実習（食栄、昼、後期、1） 各ライフステージにおける、食事摂取基準に応じた献立作成を行い、実際に自分の献立を調理できるようなスケジュールにしている。また、行事食、調乳実習、嚥下対応食の試食、とろみ剤の使用等、幅広い体験ができる内容を取り入れた。		
	特別演習（食栄、昼、通年、4） 白砂糖代替食品による食後血糖値変化と、身近な食品から分離した酵母の製パンへの利用の2つをテーマに演習を行った。履修学生が中心に被験者となり、食事摂取後の血糖値を測定することで糖尿病における栄養管理について理解を深めることができた。また、酵母の利用性については、学生の興味や関心を追求し、調理の応用力を高めることができた。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、骨粗鬆症学会、体力医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	・ 世界の料理講座（調理実習）の補助 津市国際交流協会 (2024.7、2024.11) ・ 出前講座「成長期に必要な栄養について」（講師）四日市農芸高校 (2024.9) ・ 管理栄養士国家試験対策講座 栄養学・応用栄養学（講師）(2024.9) ・ 出前講座「自分に必要な栄養量を考える」（講師）津市中央公民館 (2025.1)		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 生涯健康な生活をおくるためには、身体機能およびメンタルヘルスの維持が重要です。これらに関連する食習慣、生活習慣について、調査し検討しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：講師	氏名：飯田 津喜美
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：タンパク質の構造と機能に関する研究，地域伝統食材・食文化に関する調査研究，ジュニア世代のスポーツ栄養学及びその指導に関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	中澤弥子，中根一恵，新澤祥恵，佐藤真実，辻美智子，間宮貴代子，飯田津喜美，「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究 東海・北陸支部7県（富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・愛知県・三重県）の雑煮の特徴」，日本調理科学会誌第58巻第1号49-53（2025）		
その他	飯田津喜美，若杉悠佑，小野はるみ（公財）三重県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会スポーツ栄養学班，「クライミング選手の食生活調査（2023年度）」，スポーツ医・科学研究MIE，第32巻，19-25，（2025）		
学会等報告			
共同研究 助成研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析） ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：食品学総論（食栄、昼、前期、2），食品学各論（食栄、昼、前期、2），食品学実験（食栄、昼、前期、1），食品衛生学（食栄、昼、後期、2），食品加工学（食栄、昼、後期、2），食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1），特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バレーボール部顧問		
学内教育活動 （その他）	食栄1年生クラス担任，食栄2年生クラス担任（就活指導等），オフィスアワー		
教育上の工夫	食品学総論（食栄、昼、前期、2） その回の教育内容について授業スライドや授業プリントを配布し講義を行った。教育内容に対応したミニ問題の出題と添削，質問に回答し理解度の確認を行った。		
	食品学各論（食栄、昼、前期、2） その回の教育内容について授業スライドや授業プリントを配布し講義を行った。実物食材や画像等を用いることにより食材を身近に感じ理解を深めてもらうよう努めた。教育内容に対応したミニ問題の出題と添削，質問に回答し理解度の確認を行った。		
	食品学実験（食栄、昼、前期、1） 食品学に係る講義の理解を深め，学んだ知識の実践を行うことができるよう内容を選択し実施した。実験科目であるので安全性に配慮し，基本的な実験方法の練習を積んでから食品に関する各実験を行うようにした。		
	食品衛生学（食栄、昼、後期、2） その回の教育内容について授業スライドや授業プリントを配布し講義を行った。また，視覚的にわかりやすい情報提供をインターネット環境で行った。教育内容に対応したミニ問題の出題と添削，質問に回答し理解度の確認を行った。		
	食品加工学（食栄、昼、後期、2） その回の教育内容について授業スライドや授業プリントを配布し講義を行った。加工技術及び工程は動画を用いることで視覚的にわかりやすい情報提供をインターネット環境で行った。グループワークを取り入れ主体的かつ自発的な学びへつなげるよう努めた。		
	食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1） 食品衛生学に係る講義の理解を深め，学んだ知識の実践を行うことができるよう内容を選択し実施した。実験科目であるので安全性に配慮し，基本的な実験方法の練習を積んでから食品衛生に関する各実験を行うようにした。		
	特別演習（食栄、昼、通年、4） 地域伝統食材・食文化に関する調査研究分野において，文献の読み解き方，研究のまとめ方，プレゼン指導等を通して実社会で必要な知識及び技術の習得につながるよう努めた。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本生化学会，日本調理科学会，日本蛋白質科学会，日本熱測定学会他			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター2024年度「橿原地域の魅力創出のための調査研究」地元食材を活用したメニュー開発に向けた調査研究 スポーツ包括連携協定出前授業（調理実習）「アスリートの食事の基本について」，ヴィアティン三重女子バレーボールチーム，三重短期大学，2024年5月11日 管理栄養士国家試験対策講座「食べ物と健康」 2024年11月8日		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

学外審議会委員等	一般社団法人日本調理科学会2025年度大会実行委員会委員（2024年6月～現在） 公益社団法人三重県栄養士会スポーツ栄養委員会委員（2023年5月～現在） 公益財団法人三重県スポーツ協会スポーツ医・科学実行委員会委員（2010年6月～現在）同スポーツ栄養学班班長（2020年6月～現在）
学外講演会講師等	スポーツ栄養指導教室講師（分担），三重県山岳・スポーツクライミング連盟，2024年11月17日
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事
他大学非常勤講師	
3 一言アピール タンパク質は、その構造や機能を調べることで様々な性質を知ることができます。現在、大阪公立大学との共同研究において、生体内輸送蛋白質であるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規薬剤送達システムの開発を目指し、本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。 また、三重県の伝統食材（シロミトリ豆等）を調査し、有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食の継承活動も行っています。 研究テーマはそれぞれ生命科学，食文化，スポーツ栄養と異なる分野にわたっていますが、実は互いに関連しあう部分も多く、学内・学外の方々と多面から食のあり方を考えていきたいと思っています。 （研究テーマの応用例：地域伝統食材の有効利用法の提案，ジュニア世代スポーツ選手への食生活指導 等）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：服部 知美
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：① 人工甘味料に関する研究 ② 健康維持増進及び疾病予防に資する献立の開発			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	1. 服部知美(津市立三重短期大学)：湯気立ち上る、冬のあったか大満足メニュー、第28回日本病態栄養学会年次学術総会 レシピコンテスト(季節の食材を活かした低たんぱく食～冬期の食材で美味しく手軽な低たんぱく食を～) 2025年1月 京都 審査員奨励賞受賞		
学会等報告			
共同研究 助成研究	日本(三重県)における人工甘味料を含有する清涼飲料水販売の実態、三重短期大学地域問題研究所		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：特別演習(食栄、昼、通年、4)、栄養教育論実習(食栄、昼、前期、1)、給食運営管理論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、調理学実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、調理学実習Ⅱ(食栄、昼、後期、1)、応用栄養学実習(食栄、昼、後期、1)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	各種実験実習(食栄、昼、前期・後期、1) 円滑な実習の進行のための前日当日の準備、及び運営のための実習費の管理に努めた。特に給食運営管理論実習Ⅰでは、自身の現場経験に基づく細部にわたる助言、指導を心がけた。 特別演習(食栄、昼、通年、4) ①「キウイでポジティブを届けようレシピコンテスト2024」に向けた一連の指導Ⅰ、Ⅱを行った。 Ⅰ コンセプト、献立作成、レシピの書き方、調理、盛り付け及びエントリースートへの書き方 Ⅱ 最終審査進出レシピの実技(調理)及びプレゼンテーションの指導 3つの応募作品のうち「健康、美肌にうれしい サマーロール」がゼスプリ賞(3位相当)を受賞した。(応募総数110作品) 主催：全国栄養士養成施設協会 協賛：ゼスプリインターナショナルジャパン ② 季節献立(初夏・七夕)、保健機能食品使用一品献立、レシピコンテスト作品(2大会)、地産地消一品献立、20歳代女性へ向けたバランス献立の考案と試作を重ねた信頼性の高い分量にて調理、盛り付けおよび現場で役立つわかりやすいレシピ(分量と作り方)の書き方指導を行い、『服部ゼミレシピ集/Hattori Seminar Recipe Collection』(本文カラー79ページ)を作成した。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	① 津市特定保健指導研修会「～よりよい保健指導のために～様々な取り組み事例と保健機能食品の考え方」 津市健康福祉部健康づくり課 於：津市役所 (2024年7月25日) ② 三重短期大学オープンカレッジ「高齢期の食事と健康増進」 (2024年11月2日) ③ 管理栄養士国家試験対策講座 補助 (2024年9月)		
学外審議会委員等	伊勢市学校給食運営委員会委員長 2024年1月～2025年3月		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
・健康の維持増進の要となる食生活について、地域の皆様が心から重要と感じ、食生活改善への行動変容へと導けるよう、講演会、学会等を通じて発信していきます。また、健康に配慮したおいしい食事作りができる栄養士の養成とレシピの開発、研究を進めてまいります。 ・日本病態栄養学会病態栄養専門管理栄養士認定試験合格			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：福安 智哉
I 研究活動			
1 研究課題 cystic fibrosis (CF) 患者の腸内細菌叢に関して			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	「嚢胞性線維症の病態における腸内細菌叢の役割」日本膵臓学会,2024/7/25~26		
共同研究 助成研究	日本における CF 患者の動向及び実態調査(2018-) 名古屋大学 健康栄養医学研究室		
II 教育活動			
1 担当科目：食品学実験（食栄、昼、前期、1）、臨床栄養学実習（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1年生、2年生）、食栄学生就職・編入指導（2年生）		
教育上の工夫	各種実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 各種実験において、円滑な進行の為に事前準備、助言を行った。臨床栄養学実習において、各種献立の基本的な考え方等基礎に関する助言を行った。栄養指導論実習において、PC等を用いた栄養指導方法に関して、見やすい字の大きさや色合い、トラブルシューティング等、技術的サポートを行った。校外実習事前事後において、円滑に実習が行われる為に注力した。 書類やメールでのやり取りが増加したため、基本的な送付方法等の指導を行った。 特別演習（食栄、昼、通年、4） 学生個人の考えや、希望を尊重し、当校施設で可能な範囲で演習を行った。食という面を幅広くとらえ、単に栄養といったことだけでなく近年問題となっている遺伝子組み換え作物の作成方法やその懸念点、基礎的な研究方法の講義・実験を行い、今後学生がより広い目線で物事を考えることができるように演習を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本膵臓学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	みえアカデミックセミナー「腸内細菌叢とは何か」2024年8月 管理栄養士国家試験対策講座 補助 2024年10月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	嚢胞性線維症支援ネットワークに所属		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
腸内細菌叢というのはとても複雑で、様々な要因によって変化するのに加えて、疾患との関連が報告されています。腸内細菌叢を変容させる方法はいくつもありますが、特に栄養は腸内細菌叢を変化させる要因として代表的な物ですので、研究で得た知見を元に、より良い腸内細菌叢について、変え方等の指導をしてまいります。			

津市立三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：生田 李緒
I 研究活動			
1 研究課題：味覚器の形成と維持に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<u>Rio Ikuta</u> , Yuu Kakinohana and Shun Hamada Ultrastructural localization of calcium homeostasis modulator 1 in mouse taste buds <i>Chemical Senses</i> 49 bjae019 2024 年		
その他			
学会等報告			
共同研究	科研費 若手研究「味受容細胞シナプスの形成・消失および味覚異常おける変化」（課題番号：24K20673）		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目 食物栄養学入門（食栄、昼、前期、2）生化学実験（食栄、昼、前期、1）、給食運営管理論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、給食運営管理論実習Ⅲ（食栄、昼、通年、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスマナー		
教育上の工夫	各種実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 主担当の教員と打ち合わせを行い、実験・実習の円滑な進行のための事前準備を行なった。実験・実習中は学生の様子に気を配り、実験操作等が不慣れな学生には個別に指導を行なった。 特別演習（食栄、昼、通年、4） 遺伝子組み替え作物に焦点をあて、研究の計画・実施を学生と共に行うことで、研究に関する一連の流れを理解できるように指導を行なった。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本味と匂学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「味を感じる仕組み」2024年10月 味覚のお話～5つの基本味と味蕾～、三十三トピックス2024年7月 管理栄養士国家試験対策講座 補助 2024年10月、11月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
味を感じるメカニズムは近年急速に解明されつつありますが、まだ解明されていない点も多く残っています。主に光学顕微鏡や電子顕微鏡などを用いた形態学的手法で、味を感じるメカニズムの解明に取り組んでいます。 （研究テーマの応用例：味覚異常に関する研究）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動			
1 研究課題：環境概念の理論的探究、生活科学についての原論的理解の深化、外来生物問題をめぐる環境思想の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	書評：朝日新聞取材チーム著『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか？一命と向きあう現場から』（岩波ジュニア新書）、三重短期大学地域問題研究所、『地研年報』29号、p79-84		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：生活経営（生活、昼、前期、2、隔年）、環境政策論（法1・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法2、夜、後期、2）、地域政策論Ⅱ・地域政策論（法2、夜、後期、2）、環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	イラスト部顧問		
学内教育活動 （その他）	一年次クラス担任 オフィスアワー設定、編入学指導		
教育上の工夫	生活経営（生活、昼、後期、2、隔年） 少子化の背景にあるもの、ということで、労働問題を賃労働論やジェンダーの観点から解説し、学生が自身の将来のキャリア形成における問題とリンクして理解できるように図っている。 環境政策論（法1・生活、昼、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。 環境政策論（法2、夜、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。 地域政策論Ⅱ・地域政策論（法2、夜、後期、2） 地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。 環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年） 環境倫理学の柱となるテーマであるところの、「世代間倫理」・「人間中心主義批判」・「環境的正義」についての学説を紹介することで、環境問題をめぐる思想的な課題について解説し、思考を促している。 居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。 居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図り、なおかつ、2年次における所属ゼミ選択についての判断材料を提供している。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、日本家政学会家政学原論部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「人新世について考える」2024年9月7日		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	日本家政学会家政学原論部会 中部地区委員		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
環境思想と家政学原論の統合を目指します。			
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理、家政学から見た獣害問題）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：木下 誠一
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：居住計画論（生活、昼、前期、2）、居住福祉論（生活、昼、後期、2）、住生活論（生活、昼、後期、2）、建築製図基礎（生活、昼、前期、2）、住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	居住計画論（生活、昼、前期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。前回の講義内容の振り返りとして、提出された課題レポートの中から優れたものを紹介し解説している。 居住福祉論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。資格に関連した内容にもふれて、資格取得への関心を高めるようにしている。インプットした知識を定着させるため、実践応用編として後半の授業では演習課題を課している。 住生活論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。講義の最後には、講義のテーマに関連した動画を視聴することで、理解が深まるようにしている。 建築製図基礎（生活、昼、前期、2） 学生の理解度や作業の進捗などに個人差があるため、なるべく各机をまわって個別に質問や相談を受け、作業の進捗状況に合わせてアドバイスするように心掛けている。 住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2） 作品の制作では、学生の能力や取り組み方などに個人差がみられるため、学生それぞれが能力と個性を発揮できるよう、個別指導に力を入れている。現役で活躍する建築家数名から直接指導・助言を得られる機会を設けている。 居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 問題解決型の授業として課題テーマを設定し、グループワークによる意見交換を通して問題意識を深め、最後にまとめた成果を発表する形式で実施している。3～4回の授業を1セットとして段階的に取り組めるように計画している。 居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させ、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している。卒業設計で最も優れた作品は、全国卒業設計展に出展している。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市景観審議会委員、津市景観アドバイザー、松阪市景観アドバイザー、鈴鹿市景観審議会審査部会員、三重県建設技術センター理事、尾鷲市体育文化会館及び中央公民館耐震・長寿命化工事実施設計業務プロポーザル選定委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたいと思っています。 （研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動			
1 研究課題：地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造、多核ネットワーク型都市構造、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果			
2 研究活動実績			
著書			
論文	地方都市において二つ拠点を有する中心市街地再生計画の経緯に関する考察 ～津市における津駅周辺地区と大門・丸之内地区再生計画を事例（2020～2023）として～ 三重短期大学生生活科学研究会紀要 みえ生活科学研究 第4号 2025年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、2・1）、住環境計画（生活、昼、前期、2）、地域政策論Ⅰ・地域政策論（生活・法1、昼、前期、2）、生活科学概論（生活、昼、前期、2）、地域づくり実践（生活、昼、夏季集中講義、2）、まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1）、地域環境学（生活、昼、後期、2）、都市計画論（生活、昼、後期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市一身田寺内町の館及び寺内町の視察（校外演習v.1）、津市津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察（校外演習v.2）、津市久居アストプラザの視察（校外演習v.3）、世界的建築家フランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル他、建築遺産の視察（校外演習v.4）を実施。		
学内教育活動 （その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：金曜日15:00～16:30、後期：月曜日13:00～14:30、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究と発表会の指導、及び「2024年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・計画・設計）集」の作成・編集。また、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書等の添削、小論文の書き方指導、面接試験の指導。		
教育上の工夫	まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、2・1） 本講義は2年生向けの講義であり、2022年度からまちづくり企画としての開講となった。現地調査、テーマ、コンセプトなどを検討する際、出来る限り参考資料を配布するとともに具体的な事例を紹介しながら説明している。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。		
	住環境計画（生活、昼、前期、2） 講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。居住環境コースの1年生前期用であり、学習の出発点と位置づけていることから、分かりやすい講義に努めている。		
	地域政策論Ⅰ・地域政策論（生活・法1、昼、前期、2） 今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。主に2年生前期用の講義と捉えており、少し難しい講義になっている。24年度は1年生も多く受講して来ていることから、2年生用をアピールするか、少し内容を易しくするか考えたい。		
	生活科学概論（生活、昼、前期、2） 生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっており、学科長であったことから第1回のガイダンスと一講義を担当している。ガイダンスでは講義のオリエンテーションと研究倫理教育を実施するとともに、講義では生活福祉・心理コース、居住環境コースの学生全員に興味を持ってもらうため、「住民参加とコミュニティ」というソフトなテーマで講義を行っている。パワーポイントの視覚的教材を積極的に使用し、最後に感想や意見等をA5版用紙に記載させるなど興味を持てるような工夫をしている。		
	地域づくり実践（生活、昼、夏季集中講義、2） 22年度から始まった、生活福祉・心理コースと協働の夏季集中講義である。夏休みの後半9月12日、13日、17日、18日の計4日間の集中講義であった。両コース計23名の学生参加と全教員により、大門・丸之内地区を対象としたフィールドワークを行うなど、全体として新聞や市広報に取り上げられるなど盛況な結果となった。また、24年度は「エリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」に学生からの提案として取り上げられた。今後も、生活科学科の特徴ある講義として継続したい。		
	まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1） 24年度は、前半の企画をグループワーク、後半の設計をグループワークもしくは個人設計とした。結果として、各自が設計に取り込める時間が増えることとなった。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。2年生後期の建築士を目指した授業であることから、適正な受講者数も課題としたい。		
	地域環境学（生活、昼、後期、2） 今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、学生の興味を引く工夫を施し、最新の情報などを取り入れ、知的興味を持てるように工夫をしていきたい。なお、受講人数が多い場合や大教室で講義を行った場合、評価が下がる傾向にある。		
	都市計画論（生活、昼、後期、2） 今後も、新しい情報を加えるとともにわかりやすさに努め、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしたい。やはり、履修学生が増えた時の評価が課題となる。		
	居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 24年度は情報系教員在外研修のため、居住環境コース3名の教員によるローテーション形式による講義となった。都市計画分野では、4名程度のグループで、1.まちづくりワークショップ（三重短期大学周辺の現状を知ろう）、2.まちづくりのテーマ・コンセプトを考えよう（グループワークなど）、3.まちの将来構想づくり（持続可能な地域づくり）をワークショップ形式で行い、都市計画ゼミやまちづくりの内容を体験できる講義とした。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究計画及び卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業計画・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。2024年度はゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、津市久居アストプラザ、博物館明治村の視察を行った。	
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	
学外審議会委員等	一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2024～）、三重県開発審査会委員（建築）（2022～）、津市市民活動推進事業交付金対象事業選考懇話会委員（2022～）、津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会オブザーバー（2022～）、明和町都市計画審議会委員長（2022～）、津駅周辺道路空間再編検討委員会委員長（2021～）、三重県公共事業評価審査委員会（技術(都市計画)）（2020～）、四日市市開発審査会委員（都市計画・建築）（2016～2024）、三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール	
地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画論の共存、住民参加型計画の効果、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。 （研究テーマの応用例：地方都市再生、持続可能な多核ネットワーク型都市構造の検討、中心市街地の活性化、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：武田 誠一
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：○地域包括ケアシステム推進における地域の課題分析。○後期近代における「互助」の在り方の検討。			
2 研究活動実績			
著書			
論文	武田誠一、「三重県における重層的支援体制整備事業の現状と課題」、『地研年報』三重短期大学地域問題研究所 編、29号、pp.57-64、2024年11月。 武田誠一、「『社会的処方』に関する研究動向 ― 医中誌Webによる文献検索結果から」、『みえ生活科学研究』、4号、pp.23-27、2025年3月。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	三重短期大学地域連携センター 政策研究・研修コーディネーター 政策研究・研修テーマ「『個別避難計画』策定の課題の検証―地域福祉を基礎とした防災を考える」		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生前期のクラス会を毎月開催し、学生の学修・生活指導を行った。通年でオフィスアワー（週1回 1コマ）を実施し、ゼミ生、科目履修者の学修指導を行った。		
教育上の工夫	医療福祉論（生活、昼、前期、2） 毎回、関連する新聞記事を紹介し、学生の知的刺激に結びついている工夫を行った。今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。また、ミニットペーパーを活用し学生の理解度を把握している。 社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4） ソーシャルワークを理解できるように採用するテキストを変更した。 主体的な学修ができるように、学生が発表する機会を積極的に取り入れた。 社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4） 少人数であるため、グループワークを多用した。 映像教材などを活用して、学生の理解度を高める工夫を行った。 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 実習中の巡回を通じて、実習目標の達成度、日誌の記述などの指導を行うことで、実習中の不安解消など実習生のサポートを行った。 社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 実習中の巡回を通じて、実習目標の達成度、日誌の記述などの指導を行うことで、実習中の不安解消など実習生のサポートを行った。 福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。 福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学社会福祉士国家試験対策講座「タクソノミーⅡ・Ⅲ型事例問題対策」「社会学と社会システム」2024年10月		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～2024年9月、津市社会福祉事業団評議員 2021年6月～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「貧困に対する支援」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療と福祉」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）」		
3 一言アピール			
福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：高橋 彩
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：青年期の政治意識、アイデンティティ形成、親子関係、道徳的判断			
2 研究活動実績			
著書			
論文	・若者の政治的無力感とシステム正当化 『地研年報』, 29号, 65-77. 2024年11月 ・チケット不正転売禁止法に対する態度尺度の作成 『みえ生活科学研究』, 4号, 12-22. 2025年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：心理学（生活・法1、昼、前期、2）、発達心理学（生活、昼、前期、2）、心理学基礎実験（生活、昼、前期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、行動の理論（生活、昼、後期、2）、心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2）、心理学研究法（生活、昼、後期、2）、青年期の心理（生活、昼、後期、2）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日15：30-17：00）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接指導を行った。就職未決定者に対する就職に関する相談にのった。		
教育上の工夫	心理学（生活・法1、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。配布資料の図表は引用先を示し、学生自身がさらに調べられるようにした。学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し、結果の見方などを解説した。		
	発達心理学（生活、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。DVDを用いて、乳幼児の言語発達、認知発達への興味や理解が深まるように工夫した。		
	心理学基礎実験（生活、昼、前期、2） 心理学実験の実験者と実験参加者の両方を体験しながら、データ収集、分析、レポート作成が身につくように、学生のペースに合わせた進度で授業計画を進めた。特に提出されたレポートの添削を個別に行ったうえで、返却した。		
	行動の理論（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。テキストの実験グラフを意味するところを、パワーポイントと動画を利用しながら解説した。小課題や感想、質問を書くことで、学生が自分自身の体験と教科書の知識との関連を意識できるよう心がけた。		
	青年期の心理（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。青年期特有の心理について、課題や感想を書くことを通して、学生が自分の経験や感情を振り返る機会をもてるようにした。動画をなるべく取り入れるようにした。		
	心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2） 配布資料とパワーポイントを用いて対面授業を行った。依存症、自殺、ひきこもり、発達障害、被災者など、支援を必要とする対象に応じた心理療法や支援法を解説し、ワークシートを用いて学生が自分で考えながら取り組めるように工夫した。		
	心理学研究法（生活、昼、後期、2） 心理学の代表的な研究方法である質問紙法、面接法、観察法を取り上げた。実験者として必要な態度やデータのまとめ方など、実験方法とレポートを作成するための基本的な知識を身につけることが出来るようにした。		
	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 指定図書から、学生自身がそれぞれ1つのテーマを選び発表を行った。各自が作成した発表資料とその解説を基に質疑応答を行うことで、心理学の幅広い研究テーマについての知識を共有することが出来た。		
	福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文を調査研究または展望論文の形でまとめることを目指した。前期は指定図書の購読と論文の検索の仕方を解説し、卒論のテーマ選びを進めた。後期は卒業論文の執筆を中心に、調査研究を行う学生にはデータ分析の指導をおこなった。1月中に卒業論文を完成させることができた。		
	Ⅲ 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本青年心理学会 日本社会心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「心理学的観点から道徳について考える」2024年7月6日 三重短期大学社会福祉士国家試験対策講座「心理学と心理的支援論」2024年9月		
学外審議会委員等	四日市市市民協働促進委員会副委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	大谷保育協会「発達心理学1・2」、同朋大学「心理学実験」、同朋大学「学習・言語心理学」「社会・集団・家族心理学」		
3 一言アピール 青年期のアイデンティティ発達、親子関係、政治意識、道徳的判断などに関心があります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：北村 香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「障害者福祉施設従事者による障害者虐待の現状と課題 ―虐待のない支援を目指して」『地研年報』29号、2024年11月。		
その他			
学会等報告			
共同研究	「相模原市人権条例と相模原障害者殺傷事件 ―地方都市で人権擁護に取り組むということ」2024年度三重短期大学地域問題研究所研究員		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、地域づくり実践（生活、昼、集中、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	子ども食堂サークル顧問 ボランティアサークル顧問		
学内教育活動 （その他）	オフィスアワー（火曜日：4限）、クラス担任（1年生前期）、卒論作成指導、ゼミ生に限らず就職活動支援や4年制大学への編入希望者に対し小論文及び面接対策を行いました。		
教育上の工夫	障害者福祉論（生活、昼、前期、2） 障害者福祉制度の基本のみならず、「障害とは何か」を考えるような内容を加えることで、障害者福祉に関する理解を深め、さらにこれからの具体的な行動に繋げられることをめざしました。また、映像教材も適宜使用することで、障害のある人の生活についてできるだけ具体的にイメージできるように心掛けました。		
	社会福祉発達史（生活、昼、前期、2） 「社会福祉」自体のイメージができない学生に対しても、その構造を説明するように工夫をしました。現在と歴史とがどうつながっているのかについても、具体的に説明するように心掛けました。		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3） 実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。今年度は新たなプログラムを用意して、実習後のまとめと指導方法に工夫を取り組みました。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（SS、昼、後期、3） 積極的に動くことが難しい学生に対し、実習巡回や帰校日などを使ってじっくり話を聞いたり、実習指導者とも十分に意思疎通をはかって、学生の状況をわかっていただくことに心掛けました。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（SS、昼、前期、3） 施設側と学生との連絡を密にとり、すぐに対応できるよう努めました。また、施設側からの相談にもすぐに応じるようにして、現場が緊迫した中での実習生受け入れに対して少しでも負担を減らすように対応しました。		
	社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4） 社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨めるためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的に行うようにしました。クラスルームを使い、毎回授業後のふりかえりを丁寧に行いました。		
	地域づくり実践（生活、昼、集中、2） 学科教員とともに会議やワークショップを重ねて準備をした上で、フィールドワーク、グループワークなど実践的な授業を行いました。備品やワークショップの準備に関しても積極的に行いました。		
	演習（生活、昼、通年、4） 夏休みに他大学との合同ゼミ合宿を開催し、愛媛大学、金沢大学、神戸大学、和歌山大学等8校の3年生4年生とともに報告や討論を行いました。そのほかフィールドワークにも出て活動を行いました。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導も行いました		
	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 様々な背景を持つ学生がいるので、それにも配慮しつつ、ゼミが仲間作りの場にもなるように、新聞記事の紹介や今日の一言などを通してひとりひとりが自分を表現できる場を特に重視しました。また、ゼミの内容についても、学生から積極的に提案をするように求めてとりくみました。		
	III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害者学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学社会福祉士国家試験対策講座「貧困に対する支援」「障害者福祉」「権利擁護を支える法制度」2024年9月。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

学外審議会委員等	三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、三重県障がい者虐待防止対策支援事業に伴う専門家チーム構成員、三重県社会福祉審議会委員、三重県行政不服審査会委員、三重県自立支援協議会地域移行検討部会委員（部会長）、三重県地方労働審議会公益委員（会長代理）、桑名市地域自立支援協議会委員（会長）
学外講演会講師等	「暮らしやすい地域をつくるために～障がいのある人の生活とは」令和6年度三重県民生委員・児童委員ブロック別研修会（北勢エリア）講師。「障がい者の尊厳を守るために～虐待のない支援をめざして～」社会福祉法人昭徳会 2024年度虐待防止研修講師。
その他の社会活動	日本科学者会議三重支部事務局長、日本科学者会議第25回総合学術研究集会大会実行委員、三重県障害者雇用推進協議会委員
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「社会福祉」、高田短期大学「障害者のくらし」、日本福祉大学教育・心理学部「関係行政論」
3 一言アピール 障がいのある人が社会生活を送る時に障壁となるものは具体的に何なのかを分析しながら、皆が生きやすい社会の仕組みについて考察しています。また、女性の貧困や労働環境についても関心を持っています。 （研究テーマの応用例：ユニバーサルデザインのまちづくり、男女共同参画のまちづくり 等）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科（※後期：在外研修）		職名：准教授	氏名：笠 浩一郎
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ（共通、夜、前期、1）、情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、前期、1）、 数理科学（生活、昼、前期、2）、情報と社会（共通、昼、前期、2）、 情報技術論・情報と科学（法1・生活、昼、前期、2）、 居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ダンス部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任（居住環境コース）、4年制大学への編入学を目指す学生への数学、情報等の個別指導を実施した。		
教育上の工夫	情報処理実習Ⅰ（共通、夜、前期、1） 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように教科書の選定に配慮した。 情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、前期、1） 情報処理実習Ⅱは、情報処理実習Ⅰで基礎的な能力を身に付けている学生が受講しているため、学生によるレベル差は情報処理実習Ⅰほど大きくないため、比較的難易度が高い課題に対しても、学生が十分に対応できている。RESASを用いて実データをもとに現実世界の問題の解決策を考える授業にしたので、学生も意欲的に取り組んでいる。 数理科学（生活、昼、前期、2） 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なため、講義では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応した。 情報と社会（共通、昼、前期、2） 難しい内容には分かりやすい図を増やすなど資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、具体的な事例を紹介することで、理解しやすくなるようにした。 情報技術論・情報と科学（法1・生活、昼、前期、2） 情報技術の基本的な内容について学べる講義であるが、ITパスポート試験及び基本情報処理技術者試験に興味がある学生も多く受講するため、資格試験を意識した講義内容にした。講義内容の理解度を確認するテストでは、4択問題にすることで、難しい内容でも学生が取り組みやすいように意識した。 居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究（プロジェクト）に取り組んでおり、2023年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作、HP制作、Pythonを用いたプログラミングなどを実施した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：田中 武士
I 研究活動			
1 研究課題：社会保障および社会福祉の制度・政策研究、介護殺人関連要因の研究、臨床における倫理的課題に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	2024年11月1日 三重県地域生活定着支援センター つながり第17号「なぜ母親は娘を手にかけてのか―銚子市母子心中事件―」		
学会等報告	2024年8月17日 日本医療総合研究所研究報告会「介護殺人関連要因の理論的考察」		
共同研究 助成研究	「介護殺人関連要因の連続性に関する研究」 2024年度 公益財団法人 日本医療総合研究所研究助成（個人）		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、介護概論（生活、昼、後期、2）、社会福祉論・社会福祉論Ⅰ（生活・法1・法2、昼、2）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	軽音楽部顧問、バトミントン部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任（1年生、前期）、オフィシアワー、医療機関や福祉施設などでの学外演習、卒論執筆指導、編入学指導、就職活動支援		
教育上の工夫	社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。		
	社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。		
	介護概論（生活、昼、後期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。		
	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ（生活・法1・法2、昼、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、前期、3） 実習がより効果的な内容となるよう、実習分野や施設概要、利用者や職員との交流、プライバシー保護などについて総合的な事前準備を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとっては初めての実習となるため、緊張感のなかにも社会福祉の現場の魅力が実感できるような内容となるように適切な指導に努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 長期間の実習になるが具体的な課題を明確にし、謙虚さを保ちながら社会福祉現場で積極的に様々な経験を積めるように適切な指導に努めている。		
	福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 輪読を通した対話の中で各人の問題意識を深め、研究報告を行い卒業論文として完成できるように指導している。		
	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 施設見学やシンポジウム等への参加から各人の問題意識を深め、各人の研究テーマの具体化が図れるよう指導している。		
	III 学会等及び社会における主な活動		
1. 所属学会：日本社会福祉学会、日本社会保障法学会、日本社会医学会、日本医療福祉政策学会、日本臨床倫理学会			
2. 社会活動実績			
地域連携事業	政策研究研修「いのちを守る居場所としての公共図書館機能の関する研究」 三重短期大学社会福祉士国家試験対策講座「社会福祉の原理と政策」「社会保障」2024年10月		
学外審議会委員等	津市人権施設審議会委員、津市福祉有償運送運営協議会会長、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員		
学外講演会講師等	2025年2月25日、三重県民生委員児童委員協議会ブロック別研修会講師「私たちの安心できる地域をつくりたいーある介護殺人の例を通して考えるー」		
その他の社会活動	生活保護問題対策全国会議事務局次長		
他大学非常勤講師	四日市看護医療大学（健康社会要因論、社会医療福祉論）		

三重短期大学教員研究・教育業績（2024年度）

3 一言アピール

現代社会において貧困問題はますます深刻化しています。社会保障や社会福祉が権利として実質的に保障されるためにはどうすれば良いのか、そのことテーマに研究教育活動に取り組んでいます。学内のみならず地域活動と現場実践を重視した取り組みを大切にしています。